令和８年度

〔令和８年４月入学〕

お茶の水女子大学
入学者選抜要項

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

〒112-8610　東京都文京区大塚２丁目１番１号
TEL　03（5978）5151,5152（入試課）
HP　https://www.ao.ocha.ac.jp/

※感染症等の影響により、入学者選抜方法等を変更することがあります。
その場合、上記ホームページにて周知します。

目　　次

Ⅰ 入学者受入方針
１．お茶の水女子大学の教育とアドミッション・ポリシー・・・・・・・・・・・・　１
２．学部のアドミッション・ポリシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
３．入学者選抜方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
４．学科のアドミッション・ポリシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

Ⅱ 学部・学科別募集人員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５

Ⅲ 入学者選抜日程 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

Ⅳ 一般選抜
１．出　願　資　格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
２．出　願　期　間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
３．出 願 について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
４．入学者選抜方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
５．大学入学共通テストで受験を要する教科等・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
６．本学における個別テスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１

Ⅴ 総合型選抜（新フンボルト入試）
１．本学の教育理念と総合型選抜（新フンボルト入試）アドミッション・ポリシー２８
２．求める人物像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
３．学科のアドミッション・ポリシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
４．募集人員・出願資格等〔総合型選抜（新フンボルト入試)〕・・・・・・・・・３２

Ⅵ 学校推薦型選抜
１．募集人員・出願要件〔学校推薦型選抜〕 ・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
２．出　願　期　間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
３．外国語検定試験（TOEFL、TOEIC、英語検定など）の取扱いについて・・・・・３７

Ⅶ 帰国生徒・外国学校出身者特別選抜
１．募集人員・出願要件〔帰国生徒・外国学校出身者特別選抜〕 ・・・・・・・３８
２．外国語検定試験（TOEFL、TOEIC、英語検定など）の取扱いについて・・・・・３９

Ⅷ 私費外国人留学生（学部留学生）特別選抜
１．学科のアドミッション・ポリシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４０
２．募集人員・出願要件 〔私費外国人留学生特別選抜〕・・・・・・・・・・・・４４
３．「日本留学試験」で受験を要する科目等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・４５
４．本学の入学試験 〔私費外国人留学生特別選抜〕・・・・・・・・・・・・・・４６

Ⅸ 受験上・修学上の配慮の事前相談について ・・・・・・・・・・・・・・・・・４８
Ⅹ 令和９年度入試に関する変更の予告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４８
Ⅺ お茶の水女子大学入学資格個別審査について ・・・・・・・・・・・・・・・・４９
Ⅻ 学生募集要項(願書)の発行時期・大学案内の請求方法 ・・・・・・・・・・・５０
ⅩⅢ お茶の水女子大学入試情報ホームページ ・・・・・・・・・・・・・・・・・５０
○ スマートフォンに入試情報をお届けします！ ・・・・・・・・・・・・・・・・５１

Ⅰ　入学者受入方針

1. お茶の水女子大学の教育とアドミッション・ポリシー

お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢の実現の場であることを使命とし、総合的な教養と高度な専門性を身につけた女性リーダーの育成を目指しています。そのため、21 世紀型文理融合リベラルアーツ教育、専門教育における複数プログラム選択履修制度、およびキャリア教育を3つの柱とする教育を展開しています。複数プログラム選択履修制度では、将来のキャリア展望や関心に応じて、専門教育プログラムを履修します。第1のプログラムとして、所属する学科の開設する「主プログラム」を履修します(必修、入学した学科のものを選択)。次に第2のプログラムとして、専門領域に深く特化する「強化プログラム」、他の専門領域を横断して学ぶ「副プログラム」、領域融合型・学際型の「学際プログラム」のいずれかを選択し履修します(選択必修)。また文教育学部芸術・表現行動学科及び生活科学部食物栄養学科では、それぞれの教育目標にそった4年一貫の「専修プログラム」を設けています。各自の目的や関心にそって、主体的に学修することができます。

お茶の水女子大学では、すべての女性が年齢・国籍などにかかわりなく自立した女性として、生涯にわたって多様に活躍できるキャリア形成の場を提供しています。知的好奇心と探究心を抱き、勉学意欲に富んだ学生の入学を期待しています。

2. 学部のアドミッション・ポリシー

◆ 文教育学部

文教育学部は、人間と文化と社会に迫る、人文・社会系の総合的な学部です。人間は、過去から現在に至るまで地球上のさまざまな地域で、言語をはじめとする文化や科学技術を創造し、政治、経済、教育などの諸社会組織を発展させてきました。人間と文化と社会を理解するためには、時間軸と空間軸の上に現代社会を位置づけ、マクロからミクロに至る多次元的なアプローチが必要です。

高校での学習は、その後の人生を「よく生きる」ためのものです。本学部志望者には、高校において文科系の科目はもちろん理数系の科目まで幅広く、同時にどん欲に深く学習することを望みます。

さまざまな領域や場で、リーダーが求められています。人間の思考や行動、表現に強い関心を持ち、意欲と能力と個性に富んだ皆さんが志望することを期待します。

◆ 理 学 部

理学部は、基礎科学の分野を研究対象として、主に自然界の原理や法則の追究を行うところです。女子大学の数少ない理学部として、知的好奇心溢れる女性を受け入れ、次世代のリーダーあるいは中核となる人材を育成し、社会に輩出することを目指しています。

本学部志望者には、高校において、理系科目(数学、理科〔物理、化学、生物〕)を学び、論理的思考力を身につけるようにすること、及び、自然科学の基礎知識を習得しておくことはもちろんのこと、文系科目(英語、国語、社会)も幅広く履修し、筋道の立った文章が書けることなどが望まれます。

「総合型選抜」「帰国生徒・外国学校出身者特別選抜」においては、志望学科に関係する各種コンテストなどで活躍した実績も評価します。

◆ 生活科学部

生活科学部は、人間生活における人間と環境との関係について、多角的な視点から見つめ直し、真にバランスの取れた人間の生活とは何かを探究する学部です。自然科学、人文科学、社会科学の3つの視点から、多面的に問題を考える姿勢を養うことが必要とされます。生活科学部では、それぞれの専門を深めるばかりでなく、文理融合の学部の特性を生かして、他の専門分野にも関心を持ち、多面的で総合的な視点から現実の人間生活の問題に取り組む力を持った、社会の多方面で活躍できる女性リーダーを育成することを目指しています。

高校における全ての科目が、大学での勉強に必要な基礎となりますので、志望学科の別を問わず、家庭科、芸術科、保健体育を含め、オールラウンドの学力を身につけておくことを期待します。

◆ 共創工学部

共創工学部は、幅広い自然科学・人文学・社会科学的教養と、工学とデータサイエンスの専門性を協働させることで、新たな価値を創出し社会でその成果を実践することを学ぶ学部です。これまで工学領域では様々な技術が開発され、その成果として私たちの生活は豊かに便利になってきました。しかし、その一方で環境負荷の増大や格差の拡大など、様々な社会上、倫理上の課題も浮上し、現在は、多様な人びとを包摂し、環境に優しい新発想の技術が社会で強く求められるようになっています。

この社会の要請に対し、本学部では、次のような学生を求めます。

1. 工学専門領域が連携しながら、人文学・社会科学と協働し、新しい技術や文化を創り、社会との対話を通じて新たな価値を実践・普及するグローバルリーダーを目指す人。
2. 自然科学・工学と人文学・社会科学の協働、データサイエンスやICT(情報通信技術)に強い興味を持つ人。
3. 科学技術を用いた社会や文化のイノベーションの推進に意欲を持つ人。

3．入学者選抜方法

お茶の水女子大学では、総合的な教養と高度な専門性を身につけたグローバル女性リーダーを養成することを教育目標とし、「総合的な教養（教養知）」「高度な専門性（専門知）」「実践力（実践知）」「グローバル・リーダーシップ」の4つを学習目標として掲げています。リーダーとは、自ら考え、判断し、行動し、多様性をみとめ、協働できる人です。

つぎの4種類の入学試験を実施し、4つの学習目標を達成する基盤となる力として、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の3つの要素を、多面的・総合的に評価します。

(1) 総合型選抜（新フンボルト入試）

まずプレゼミナールで志願者に大学の授業をじかに体験してもらい、そこでのレポートや他の提出書類を評価して第1次選考を行います。（理系学科志願者にはプレゼミナールは課さず、出願書類にて選考します。）第2次選考では、文系は本学附属図書館の文献や資料を駆使しつつレポートを作成します。また、グループ討論や面接を通じて論理力や課題探究力、独創性などを評価します(図書館入試)。理系は各学科の専門性に即した実験や実験演示、データの分析等の課題を課したり、高校での学びを活かした課題研究発表などを行い、探究する力を見ます(実験室入試)。その成果やプロセスを評価することで、いわゆるペーパーテストで測れない潜在的な力(ポテンシャル)を丁寧に見極めます。単なる知識(暗記)量の多寡ではなく、その知識をいかに「応用」できるかを問う入試です。

(2) 学校推薦型選抜、帰国生徒・外国学校出身者特別選抜

出願書類によって第1次選考を行います。第2次選考は、志望学科による小論文や論述試験と面接（口述試験を含む）によって、基本知識をもとにした思考力、専門分野への関心、表現する力などを総合的に判定します。なお、芸術・表現行動学科では、実技検査によって、入学後の専門科目に必要な能力を判定します。

(3) 一般選抜　前期日程

大学入学共通テストでは、高校で修得すべき幅広い基礎知識と基本的な思考力を評価します（6～7教科）。本学の個別テストでは、専門分野の内容を理解し、さらに掘り下げるために必要な教科について（文系では外国語、国語又は数学、理系では外国語、数学、理科）、知識と思考力・表現力を評価します。なお、芸術・表現行動学科では、実技検査によって、入学後の専門科目に必要な能力を判定します。

外国語（英語）では、ある程度の長さの英語の文章について、語句や文法に関する基礎的知識を見るとともに、和訳や説明などの設問、またその他の応用的設問を通じ、文脈を含む内容の理解度を測ります。また、英語による要約や説明を求める問題も出題します。

国語（現代文・古文・漢文）では、読解の基本となる基礎的知識を問うと共に、長い文章の論旨や構造を素早く的確に読み取る思考力、またそれを的確に記述する表現力を測ります。それに加えて、提示された問題に対して、自分の経験・知識をもとに主体的な論述を展開する力も求めます。

数学では、基礎学力を試す標準的な問題とともに、自分で数式を立てる能力や、さらに思考能力を広く試す問題も出題します。答えがあっているかどうかだけではなく、筋道を明確にして、数式を使って小論文を書くつもりで答案をかけば、高い評価をうることができます。

理科（物理、化学、生物）では、基礎的な知識とともに、様々な自然現象や物質の性質を科学的視点から理解し論理的に説明できる力を判定します。また、与えられた条件から科学的思考に基づき最適な結論を導き出す力も評価します。

入学者の選抜は、以上の本学が課す大学入学共通テスト、教科・科目に係る個別テスト、実技検査の結果及び調査書等の提出書類の内容を総合して判定します。

(4) 一般選抜　後期日程

大学入学共通テストでは、高校で修得すべき幅広い基礎知識と基本的な思考力を評価します（3～7教科）。本学の個別テストでは、志望学科による小論文や論述試験や面接によって、基本知識をもとにした思考力、専門分野への関心、表現する力などを評価します。なお、芸術・表現行動学科（音楽表現専修プログラム）では、実技検査によって、入学後の専門科目に必要な能力を判定します。

入学者の選抜は、以上の本学が課す大学入学共通テスト、面接（口述試験を含む）、小論文、論述試験、実技検査の結果及び調査書等の提出書類の内容を総合して判定します。

	教養知	専門知	実践知
	グローバル・リーダーシップ		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性
総合型選抜 （新フンボルト入試）	プレゼミナール（文系学科のみ）、調査書、英語検定試験	文系：図書館入試 理系：実験室入試	グループ討論、面接、 志望理由書、活動報告書
学校推薦型選抜 帰国生徒・ 外国学校出身者 特別選抜	調査書、英語検定試験、 実技検査*	小論文、論述試験、 面接（口述試験を含む）	志望理由書、推薦書（学校推薦型選抜のみ）、面接
一般選抜 　前期日程	大学入学共通テスト、 教科・科目に係る個別テスト、 実技検査*	教科・科目に係る個別テスト	調査書
一般選抜 　後期日程	大学入学共通テスト、 実技検査*	小論文、論述試験、 面接（口述試験を含む）	調査書、面接

*文教育学部　芸術・表現行動学科

4. 学科のアドミッション・ポリシー

（※総合型選抜のアドミッション・ポリシーに関しては 28 ページを、私費外国人留学生特別選抜のアドミッション・ポリシーに関しては 40 ページをそれぞれ参照してください）

◆ 文教育学部

【人文科学科】

本学科は、人類のさまざまな歩みの中から、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データを粘り強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。

高校では、様々な教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心を持ったテーマについて自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探究の面白さを経験してきてほしいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある学生の皆さんの入学を希望します。

【選考方法】

〇学校推薦型選抜、帰国生徒・外国学校出身者特別選抜

第1次選考合格者に対し、第2次選考を行います。第2次選考では、自分が学びたいと考えている専門分野(哲学・倫理学・美術史、歴史学、地理学)についての基本的知識や考え方(問題意識)、意欲や資質などを見るため、小論文と面接(口述試験を含む)を課し、総合的に合否を判断します。

[小論文]課題文や資料を読んだうえで、設問に沿って論述します。課題文・資料の内容を十分に把握し(読解力)、自分なりの論理を組み立て(論理展開力や独創性)、それを適切かつ表現豊かに論述できるか(表現力)、を評価の対象とします。

[面接]質疑を通して、将来の勉学の計画や自分の考えなどを明確に持ち、かつそれを的確に表現できるかといったコミュニケーション能力を見ます。

帰国生徒・外国学校出身者特別選抜では、学校推薦型選抜と同様の基準と判定に加えて、外国における学校生活から学んだこと、及びそれを本学入学後どのように活かそうと考えているのかが問われます。

〇前期日程

大学入学共通テストによって、幅広い基礎的な知識・技能を身につけているかどうかを判断します（6又は7教科8科目）。教科・科目に係る個別テスト（外国語および国語又は数学の2教科）によって、大学での学修に必要不可欠な基礎的知識と思考力・表現力を評価します。

〇後期日程

より個性的な学力を見るために、大学入学共通テストの得点の高い方から順に3教科・科目を利用し(150点)、本学の試験(100 点)との合計で合否を判定します。

本学の試験では、英語の課題文を読んだうえで、設問に従って論述するという小論文を出題します。この試験では英和辞書(電子式を除く)の持ち込みを認めています。なぜなら、ここでは英文の逐語訳ができるかどうかよりも、全体の文意を的確に捉えることができるか(英語の読解力)という点を重視しているからです。加えて、発想の独創性、論理構成力、豊かで正確な文章表現力といった点が評価の対象となります。

【言語文化学科】

皆さんは学校では主として国語や外国語の授業で文学や言語に接してきました。そしてそれ以上に、生まれてから現在までの家庭生活や社会生活の中で、言葉を操る力を獲得し、心を揺さぶる文学作品に出会ってきたことでしょう。

言語文化学科での学習・研究(日本語・中国語・英語・フランス語の各言語文化圏の言語・文化・思想や交流)を通じて、皆さんは漠然とした感動や疑問を明確な言葉で表現し、さらにそれを説明、解明していく方法を学びます。その学びにより、文学、言語およびその習得の面白さや不思議さを新たに発見、追究し、幅広い教養、高度な専門性と実践力を身につけることができるでしょう。

言語文化学科では、「ことば」というものの面白さに興味を持ち、そこに何かを発見したいと思っている皆さん、洗練された語学力を身につけて広い世界へ足を踏み出そうと考える皆さん、また「文学・芸術」が好きで、ただ鑑賞するだけでなく「その先」へ進みたいと思っている皆さんを歓迎します。そのような知的行為に興味を持ち、そのための訓練に耐えられるだけの、十分な基礎学力と、旺盛な知的好奇心と、言葉への愛着を持ち、主体性と協働性を持って行動できる学生を求めます。

【選考方法】

○学校推薦型選抜、帰国生徒・外国学校出身者特別選抜

学校推薦型選抜では、日本語・日本文学、中国語圏言語文化、英語圏言語文化、仏語圏言語文化のいずれかのプログラムの学習と研究に特に強い興味と意欲を持ち、それらを主プログラムとして希望する志願者を求めます。

選考は書類による第1次選考と、小論文及び面接(口述試験を含む) による第2次選考に分かれます。第2次選考の小論文では、それぞれの志望分野に相応しい読解力や表現力、論理の展開力、志望分野に対する関心や問題意識の高さなどを評価します。面接では、質疑を通して自らの志向・個性などを相手に的確に伝えるコミュニケーション能力や自己表現力を見ます。

帰国生徒・外国学校出身者特別選抜では、学校推薦型選抜と同様の基準と判定に加えて、外国における学校生活から学んだこと、及びそれを本学入学後、中国語圏、英語圏、仏語圏などの言語文化の研究にどのように活かそうと考えているのかを問います。

○前期日程

大学入学共通テストによって、幅広い基礎的な知識・技能を身につけているかどうかを判断します(6又は7教科8科目)。 教科・科目に係る個別テスト(国語および外国語の2教科)によって、大学での学修に必要不可欠な基礎的知識と思考力・表現力を評価します。

【人間社会科学科】

人間社会科学科における、人間の発達(教育科学)、人間の意識や行動の社会的側面(社会学)、子どもが育つ環境や文化(子ども学)という3つの専門領域に共通しているのは、自分を含めた「人間」に対するあくなき好奇心です。人間に関わる諸問題を学問的に解明し、そこで得られた知識を実際に役立てていきたいと考える学生の進学を期待します。

高校ではさまざまな教科や科目について幅広く学んでください。特に、国語・英語(外国語)・数学は、大学での学修と研究にとってたいへん重要な基礎的能力を育成するのに役立つでしょう。このほか地歴・公民や理科の学習を通じて、人間について深く考える姿勢と能力を身につけた学生を歓迎します。

【選考方法】

○学校推薦型選抜、帰国生徒・外国学校出身者特別選抜

教育科学主プログラム又は子ども学主プログラムの学修に強い意欲と関心を持つ人を募集します。

第1次選考では、志望理由や入学後の学習計画が本学科の受入方針と合致しているかどうかを中心に判定します。第2次選考では教育科学又は子ども学に関する小論文試験及び口述試験によって総合的に判断します。

帰国生徒・外国学校出身者特別選抜では、学校推薦型選抜と同様の基準と判定に加えて、口述試験において外国における学校生活から何を学んだのか、及びそれを本学の入学後にどのように活かそうと考えているのかが問われます。

○前期日程

大学入学共通テストによって、幅広い基礎的な知識・技能を身につけているかどうかを判断します(6又は7教科8科目)。教科・科目に係る個別テスト(外国語および国語又は数学の2教科)によって、大学での学修に必要不可欠な基礎的知識と思考力・表現力を評価します。

○後期日程

幅広い基礎的教養のほか個性的な学力を見るために、大学入学共通テストの6又は7教科に加え、小論文を採用しています。小論文では、「読み、思考し、表現する」能力などが評価の対象となります。

【芸術・表現行動学科】

本学科は、人間の芸術及び表現行動としてのパフォーマンスとその学問的研究との両方を、同時に追究しようとする貪欲な人を求めています。本学は小規模ながらも総合大学ですから、その特性を十分に利用して、「自ら」多様な可能性を切り開こうという積極的姿勢が要求されます。

本学科では、舞踊や音楽の理論と実技の双方の習得を目的とし、4年一貫で履修する専修プログラムを設け、複数プログラム選択履修制度をとっていません。受験の際に選択したコース(専修プログラム)を履修します。

[舞踊教育学]:

本専修プログラムは、舞踊を中心にスポーツから日常動作にいたる人間の身体活動や表現について、理論と実践の両面から積極的に研究を進めることのできる、両者のバランスの取れた、エネルギッシュな人材を求めています。舞踊は高校で学ぶ全ての教科と関連していますので、幅広く学習を進めてください。その上で、保

健体育、国語及び英語については特に重点的に学習し、基本的な運動能力、文章表現力、英文の読解力をきちんと身につけてきてください。

【選考方法】

〇学校推薦型選抜、帰国生徒・外国学校出身者特別選抜

第1次書類選考合格者に対し、小論文・実技検査・面接（口述試験を含む）を行います。

帰国生徒・外国学校出身者特別選抜では、学校推薦型選抜と同様の基準と判定に加えて、第1次書類選考合格者に対し、面接にて、外国での学校生活において体験したこと・学んだことと自身の舞踊との関わりなどに関しての質疑応答があります。合格判定は、出願書類と第2次選考の成績を総合して行います。

〇前期日程

大学入学共通テストによって、幅広い基礎的な知識・技能を身につけているかどうかを判断します（6又は7教科8科目）。教科・科目に係る個別テスト（外国語および国語又は数学の2教科）によって、大学での学修に必要不可欠な基礎的知識と思考力・表現力を評価します。実技検査によって、入学後の専門科目に必要な能力を判定します。

［音楽表現］：

音楽は人間の感性に関わるとともに、高度に知的社会的な活動であり、人間の営みに深く根づいています。本専修プログラムは、勉強も実技もきちんとやってみたい、そんな贅沢な悩みを抱えている人に開かれています。高校で学ぶ教科は全て重要ですが、音楽は言うまでもなく、英語と歴史はしっかりと身につけてきてください。

【選考方法】

〇学校推薦型選抜、帰国生徒・外国学校出身者特別選抜

第1次書類選考合格者に対し、小論文・実技検査・面接（口述試験を含む）を行います。

帰国生徒・外国学校出身者特別選抜では、学校推薦型選抜と同様の基準と判定に加えて、面接にて、外国での学校生活において体験したこと・学んだことと自身の音楽との関わりなどに関しての質疑応答があります。

〇前期日程

大学入学共通テストによって、幅広い基礎的な知識・技能を身につけているかどうかを判断します（6又は7教科8科目）。教科・科目に係る個別テスト（外国語および国語又は数学の2教科）によって、大学での学修に必要不可欠な基礎的知識と思考力・表現力を評価します。実技検査によって、入学後の専門科目に必要な能力を判定します。但し、実技検査全科目の平均点が6割に満たない場合は不合格となります。

〇後期日程

大学入学共通テストによって、幅広い基礎的な知識・技能を身につけているかどうかを判断します（3教科4科目）。実技検査によって、入学後の専門科目に必要な能力を判定します。但し、実技検査全科目の平均点が6割に満たない場合は不合格となります。

各学科のプログラムの選択方法

	主プログラム・専修プログラム
人文科学科	哲学・倫理学・美術史、比較歴史学、地理環境学、グローバル文化学
言語文化学科	日本語・日本文学、中国語圏言語文化、英語圏言語文化、仏語圏言語文化、グローバル文化学
人間社会科学科（注）	社会学、グローバル文化学
（教育科学・子ども学コース）	教育科学、子ども学
芸術・表現行動学科	舞踊教育学、音楽表現（専修プログラム、受験・入学時に決定）

主プログラムを選択できる上限人数はゆるやかに設定されていますが、上限を大幅に超えた場合や各プログラムで定められた条件を満たしていない場合は、一定の方法で選考を行います。

（注）人間社会科学科に出願する方は、ホームページの注意事項を確認してください。

https://www.ao.ocha.ac.jp/news/d013168.html

※ グローバル文化学(環)プログラム

グローバル化する現代社会の課題を、①地域研究・地域文化、②多文化交流・多文化共生、③国際関係・国際協力、という3つの領域を組み合わせることで、動態的に捉え、実践的に学んでいこうというのが、グローバル文化学のコンセプトです。文教育学部の3つの学科(人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科)のいずれの学生も、主プログラムとして選択できます（各学科の学生数の15％程度を上限とします）*。このプログラムの学修を希望する人は、自分の関心や得意分野にそって、受験する学科を選んでください。* ただし、人間社会科学科は教育科学・子ども学コースを除きます。

◆ 理 学 部

【数学科】

数学は、あらゆる現象の背後にある数や図形の永久に変わらない真理を追究する学問です。それを学ぶことで、魂を揺さぶる美しいものや実生活で役に立つものに出会い、また世界を見通すための厳格な論証法を身につけられると考えます。

このような観点から、数学科では主に以下のような目標を持った人を求めます。

・教師や研究者のように数学を職業としたい人
・数理的な素養を生かして社会を支える仕事につきたい人
・とにかく数学に対して意欲を持って勉強したい人

志願者に求めるのは以下のことです。

・高校での数学を十分に理解し、大学での講義に必要な数学の知識を身につけている。
・文章から数学的な意味を読み取ることができる。
・自分の考えを数学的、論理的な文章に表現して相手に伝えられる。

入試問題について:

数学については、学習指導要領の趣旨を踏まえて、高等学校の生徒が教科書の中から論理的に思考して直ちに理解できる事項を出題範囲とします。

【選考方法】

○帰国生徒・外国学校出身者特別選抜

書類選考のほか、面接(口述試験を含む) を行います。面接ではあらかじめ数学的内容の質問事項をいくつか提示し、考えを整理する時間を設けます。その上でそれらについてどのように考えたかなど色々なことを質問します。基本的なことがらを筋道正しくきちんと考えることができ、かつ説明できるかが試されます。加えて、外国における学校生活から何を学んだのか、及び本学入学後それをどのように活かそうと考えているのかを訊ねます。合格の判定は提出書類(高校での成績、志望理由書など)と面接の結果を総合して行われます。

○前期日程

基礎学力を試すために標準的問題を多数、そして柔軟な思考能力を試す問題を少し出題します。標準的問題は、「答えが合っているかどうか」という問題を解く能力を見るだけでなく、上記のように「論理的な文章の読み書き」の能力を調べるためのものです。数学に限らないことですが、自分の考えを説明するには筋道を明確にして議論をすすめなくてはいけません。ですから、受験者は数式を使った小論文を書くつもりで答案を書けば、高い評価を得るでしょう。

○後期日程

大学入学共通テストのみを課しています。高校で学ぶ数学の基礎的事項を正確に理解し応用できる力、基本的な計算を確実に行える力を身につけているかどうかを判断するために大学入学共通テストの数学の力を重視して選考します。また、外国語で書かれた数学の文献を読む必要性や国際的にも活躍する人材の養成という趣旨を踏まえ、大学入学共通テストの外国語を選考に用います。

【物理学科】

自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望します(もちろん、必要になれば教員の適切な助言及び指導を受けることができます)。また、豊かな人間性とともに、他人との協調性に優れた人格が望まれ、忍耐力も必要です。

卒業後には物理学の勉学を通して培った、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を各方面で発揮し、社会において指導的役割を果たす女性となることを期待しています。しかしながら究極的には、「物理学を学んで生き生きと充実した人生を送ること」が最も大切と考えています。

【選考方法】

○帰国生徒・外国学校出身者特別選抜

高等学校の調査書等に加えて本人が記載する志望理由書の内容が、物理学科のアドミッション・ポリシーに合致するかどうかを重視しています。補足資料(自由研究レポート、実験ノート、それまで関心を持ち続けたテーマについて考えをまとめたノート等のコピー)の添付を認めているのも、自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を発見したいためです。

第1次選考合格者に対しては、2種類の面接(口述試験を含む) を課しています。別室で解かせた計算問題に関する質疑応答から計算力と理解力を問う口述試験(20 分間)と、様々な物理現象を直観的に説明させることから自由な発想力と直感力を問う口述試験(20 分間)の2種類がこれにあたります。合否は出願書類と2種類の面接に加えて、外国における学校生活から何を学んだのか、及びそれを本学に入学後どのように活かそうと考えているのかを問います。

○前期日程

豊かな人間性を持つ志願者を得るために、大学入学共通テストから幅広い教養を身につけているかどうかを判断します。また本学の物理の試験では、単なる公式の暗記力を見るのではなく、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を判定するために、様々な工夫を凝らした問題が出題されます。このような能力を発揮するためには、数理的な解析力や表現力が必須です。そのため数学の試験を課しています。

○後期日程

後期日程では、大学入学共通テストのみを課しています。これは、幅広い教養を身につけた学生をバランスの取れた出題問題から求めようとするものですが、物理学科のアドミッション・ポリシーに従って、物理学と数学の試験を重視しています。

【化学科】

化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に関係しており、その領域は数学・物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学や地球科学の知識の必須な分野まで広がっています。

したがって、化学科の志願者は、高等学校では化学のほかにこれらの基礎となる科目、特に、数学・物理・生物を幅広く履修して、論理的思考力や自然科学の基礎知識をしっかり体得しておくことが望まれます。また、英語で書かれた文献を読みこなす語学力も要求されますので、高等学校での英語の十分な学習が必要です。

入学後には、専門の学習や研究の基盤となる実験能力を養うため、学生実験を重視しています。

なお入学後、化学科専門科目では、化学及び数学Ⅲの内容を理解していることを前提に授業を行うので注意してください。

【選考方法】

○前期日程

大学入学共通テスト及び本学の教科・科目に係る個別テストを課しています。大学入学共通テストでは、化学を中心とした幅広い基礎知識と理解力を身につけているかどうかを判断するため、理科にウエイトを置きつつ、数学、外国語、国語などの試験も重視します。さらに、本学の教科・科目に係る個別テストでは、化学の知識と理解力などの基礎学力ばかりでなく、筋道を立てて考える論理的な思考力や、答えに至るまでの自分の考えを正しく表現する能力も判定します。

○後期日程

大学入学共通テスト及び本学の個別テストを課しています。大学入学共通テストでは、前期日程と同様に、理科にウエイトを置きつつ、数学、外国語、国語などの試験も重視します。また、本学の教科・科目に係る個別テストでは、論理的思考力と科学的表現力を問う論述試験を行います。

【生物学科】

生物学では、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのためには、いろいろな視点から考える柔軟な思考力とそれを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーを持つ学生を希望します。“生き物”に関する理解と関心を深め、より豊かな知の財産を築ける人に育つことを期待しています。

【選考方法】

○帰国生徒・外国学校出身者特別選抜

多様な領域を含む生物学を学ぶには、多彩な才能の持ち主を期待します。第1次選考合格者に対し、論述試験と面接(口述試験を含む) を課します。論述試験では、生物学を中心とした科学の基礎知識、科学的文章の読解力、論理的表現力を判定します。面接では、面接担当教員との質疑応答を通して、自らの生物学の知識と考え方、社会に向き合う態度、将来への明確な展望、思考能力、個性や才能等、さらに、これらを面接担当教員に的確に伝える能力を重視します。合格判定では、出願書類と第2次選考の成績に加えて、外国における学校生活から学んだこと、それを本学入学後にどう活かそうと考えているのかが重視されます。

○前期日程

生物の基礎知識や考え方を判定しますが、それだけでなく、データや図形を理解する能力、それらを組み合わせて考える能力も判定します。さらに、数学、物理学、化学の論理と知識も重要と考えています。したがって、数学と物理・化学(選択)の試験を課しています。また、学年が上がるにつれて外国語の文献や本を読んだり、外国語で研究成果を発表したりする機会が多くなります。そのため、外国語試験を課しています。

○後期日程

大学入学共通テスト及び本学の個別テスト(面接(口述試験を含む))を課しています。

大学入学共通テストでは、科学に関する幅広い知識と考え方を身につけているかを判断するために、理科

に重点を置きます。面接では、面接担当教員との質疑応答を通して総合的な思考力を判断します。それと同時に生物学を学ぶ意欲も重視します。

【情報科学科】

情報科学はコンピュータの出現によってその存在と価値が確かめられた「情報」とよばれる概念を、エネルギーや物質と並ぶ世界の主要な構成要素として認識し、その生成、管理、利用に関する原理を探究する新しい学問分野です。今日、その応用は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学にも及んでいます。

この奥深さを理解し、これまでの成果を学びたい人、さらに今後の進展に積極的に貢献したい人にぜひ進学してきてほしいと思います。情報科学は、これまでの数理科学や自然科学の考え方を偉大な先達として独自の方法論を展開しようとしていることから、広くかつ深い理系のセンスが問われます。

情報科学を通じて 21 世紀の科学技術を支えるのは自分たち女性だと心底思っている人、あるいは思いたい人、あるいはそう言われて「そうなんだ」と今気づいた人を大歓迎します。

【選考方法】

○帰国生徒・外国学校出身者特別選抜

高等学校長作成の調査書等に加えて本人が記載する志望理由書の内容が、情報科学科のアドミッション・ポリシーに合致するかどうかを重視しています。また第1次選考合格者に対しては、筆記試験及び口述試験を課しています。筆記試験では、理系の基本的な能力を問うための数学の試験と、表現力及び自分で考えながら論述する能力を問うための小論文を課しています。口述試験では、入学後の必修講義に対応できるだけの数学等の学力が備わっているかどうかを判断します。さらに外国における学校生活から何を学んだのか、及びそれを本学科に入学後どのように活かそうと考えているのかも問われます。合格判定は、出願書類を参考にしながら、筆記試験の合計点と口述試験の内容を総合して判断しています。

なお、情報科学科に入学後の講義は高校における数学Ⅲの知識と外国語(特に英語)能力を仮定して行われます。

○前期日程

豊かな人間性を持つ志願者を得るために、大学入学共通テストから幅広い教養を身につけているかどうかを判断します。先に述べたように、情報科学は奥行きの深い学問であり、高校時代には理数系全般を学んで来ることが望まれます。そのため本学の情報科学科の試験では、理科系の選択で数学、物理、化学及び生物の4つの試験から2科目を選べるようにしています。また、理系において数学は基本的な能力であり、本学科の試験でも数学を重視しています。

○後期日程

大学入学共通テストと本学独自の数学の素養を問う論述試験を課しています。

大学入学共通テストを課すことは、幅広い教養を身につけた学生をバランスのとれた出題により求めたいという趣旨ですが、情報科学科のアドミッション・ポリシーに従って、数学、理科と外国語の点数を重視しています。また、本学独自の論述試験は情報科学を勉強するために必要となる数学の素養を持った学生を求めたいという趣旨に基づいています。

◆ 生活科学部

【食物栄養学科】

食物栄養学科は、豊かな食生活や健康な社会の実現に向けて、食物と栄養や健康に関する科学的視点と実践力を身につけた社会のリーダーとなる専門家の育成をめざしています。

本学科の教育の特徴は、管理栄養士養成課程に必要な多数の実験や臨地実習を含む長時間にわたる実験・実習が必修であることです。実験科学を基盤とした上で生活や社会との接点を重視するため、本学に入学する学生には、忍耐強く実験・実習に取り組めること、自ら考え行動できること、他者とコミュニケーションをとりながらものごとを進められることを望みます。高等学校では、理数系の基礎をしっかり履修すること並びに生活に即した学習を重視すること、具体的には、理科については物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物のうち2科目以上を、数学については数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cを履修しておくこと、家庭科や体育などの実技科目にも積極的に取り組むことを求めます。

【選考方法】

〇前期日程

大学入学共通テスト(6教科8科目)と本学の教科・科目に係る個別テスト(数学、理科、外国語)において、自然科学をはじめとする幅広い基礎学力を評価します。

〇後期日程

大学入学共通テストの成績を重視します。面接では本学における勉学意欲や適性の確認、自然科学系の基礎知識に関する質問をすることもあります。面接はABC評価により、合格判定の資料とします。

【人間生活学科】

本学科では、豊かな人間生活の実現を担う人材の育成を、「生活社会科学」、「生活文化学」という相互に関連する 2 つのアプローチを通して追求します。①生活社会科学:地域社会から国際社会まで、多元的な社会環境を視野に入れて、家族、消費者、女性、高齢者、子ども、制度と政策の問題などの生活と社会及びその関係についての社会科学的視点から分析し、政策の立案・提言を探究します。②生活文化学:人間にとって最も身近な服飾と住居、工芸、デザインなどの生活造形を生み出し、子どもを育んできた生活文化の歴史と現在について、比較文化的・民俗学的・歴史学的・保育学的視点から考察し、理解を深めます。これらの人間生活に関わる諸課題に関心があり、問題意識と研究意欲を持っている人、錯綜する現代の生活状況の中で、人間性を重視した社会を築くために貢献したいと考えている人、潤いのある生活を実現しようという熱意を持っている人を歓迎します。本学科を志望する人は、人間生活学科の2つのアプローチを踏まえ、高等学校において地理歴史・公民などの社会科系の科目をしっかりと履修していることはもちろんのこと、英語、数学、国語をはじめ、高等学校における教科科目を偏り無く履修していることを強く望みます。

【選考方法】

〇学校推薦型選抜、帰国生徒・外国学校出身者特別選抜

書類による第1次選考と、その合格者に対する第2次選考の2段階で行います。第1次選考では、調査書、志望理由書、推薦書によって基礎学力や専門領域への適性を評価します。第2次選考の面接(口述試験を含む) では論理的思考力・自己表現力・志望領域に対する問題意識などを総合的に評価します。合格判定は、出願書類と第2次選考の成績を総合して行います。

帰国生徒・外国学校出身者特別選抜では、学校推薦型選抜と同様の基準と判定に加えて、外国における学校生活から学んだこと、それを本学入学後にどう活かそうと考えているのかが問われます。

〇前期日程

大学入学共通テストによって、幅広い基礎的な知識・技能を身につけているかどうかを判断します(6又は7教科8科目)。教科・科目に係る個別テスト(外国語および国語又は数学の2教科)によって、大学での学修に必要不可欠な基礎的知識と思考力・表現力を評価します。

【心理学科】

心理学は、人間の心理的プロセスを科学的に解明し、エビデンスに基づいて人々の生活する環境や社会の課題解決を目指す学問領域です。この目的を理解して、人間の行動と心に関する科学的な見方と深い洞察力を磨き、現代の生活環境や社会の諸問題に取り組む研究意欲のある人、心の発達や健康への心理臨床的支援を行うことで社会に貢献しようという熱意のある人の進学を歓迎します。

志望する人は、高等学校において、国語・英語（外国語）・数学をはじめ、高等学校における教科科目を偏り無く履修していることを強く望みます。

【選考方法】

○学校推薦型選抜、帰国生徒・外国学校出身者特別選抜

書類による第1次選考と、その合格者に対する第2次選考の2段階で行います。第1次選考では、調査書、志望理由書、推薦書によって基礎学力や専門領域への適性を評価します。第2次選考では心理学に関する小論文と面接(口述試験を含む) によって総合的に判断します。

帰国生徒・外国学校出身者特別選抜では、学校推薦型選抜と同様の基準と判定に加えて、外国における学校生活から学んだこと、それを本学入学後にどう活かそうと考えているのかが問われます。

第2次選考では心理学に関する小論文と面接(口述試験を含む) によって総合的に判断します。合格判定は出願書類と第2次選考の成績を総合して行います。

○前期日程

大学入学共通テストによって、幅広い基礎的な知識・技能を身につけているかどうかを判断します（6又は7教科7科目）。教科・科目に係る個別テスト（外国語および国語又は数学の2教科）によって、大学での学修に必要不可欠な基礎的知識と思考力・表現力を評価します。

◆ 共創工学部

【人間環境工学科】

人間環境工学科は社会課題の解決に向けて、主に社会科学知と工学・テクノロジを協働させることで社会イノベーションを推進する力の育成を目標とします。イノベーション推進には、技術開発に留まらず、ロジックモデルを用いることでプロセス全体を見通せることが求められ、この点が従来の工学とは異なる新しさとなります。

人間環境工学科においては、次のような学生を求めます。

1. 人々との協働のもと、イノベーションの社会実践を通じて新たな価値の創成にチャレンジする女性リーダーを目指す人。
2. 持続可能な環境を構想するために求められる科学的思考力と設計力を修得するのに必要な、理科系を中心とする基礎学力を持つ人。
3. 自然科学・工学と人文学・社会科学の協働、データサイエンスやICT（情報通信技術）に強い興味を持ち、人間、環境、材料分野などの工学系分野に関する専門知識の修得に意欲のある人。
4. 環境や社会から独自に疑問を見出す課題発見力と科学技術を用いた工学的アプローチによる問題解決策の発想力・設計力（デザイン力）を身につけたいと考える人。

【選考方法】

○前期日程

大学入学共通テストでは、文理の双方について、高校で修得すべき幅広い基礎知識と基本的な思考力を評価します（国語、地歴公民、数学、理科、外国語、情報の6教科）。

教科・科目に係る個別テストでは、専門分野の内容を理解し、さらに掘り下げるために必要な教科について、知識と思考力・表現力を評価します。受験者には数学Ⅲについて履修していることを望みます。

自然科学の基礎知識を重視し、数学と英語を必須とします。さらに数学（数学Ⅲを含む）と理科（物理、化学、生物）の計4科目から2科目を選択します。

○後期日程

大学入学共通テストでは、文理の双方について、高校で修得すべき幅広い基礎知識と基本的な思考力を評価します（国語、地歴公民、数学、理科、外国語、情報の6教科）。

自然科学系の基礎知識を確認するため、大学入学共通テストの成績を重視します。面接では本学における勉学意欲や適性の確認、自然科学系の基礎知識に関する質問をすることもあります。

【文化情報工学科】

文化情報工学科は、人間の文化に関する知（人文知）をデータサイエンスや工学と協働し、文化のイノベーションを推進する力の育成を目標とします。

文化情報工学は、人文知に工学を協働させることにより生み出される、人間の文化を尊重する新しいタイプの工学です。情報・工学技術を用いて、文学、言葉、芸術、思想、歴史、地理などに関する多種多様な情報をデジタル化（収集・生成・可視化）し、分析を行い、新たな作品や価値を創出します。

文化情報工学科においては、次のような学生を求めます。

1. 文化情報工学は、これまで別個に考えられてきた文化、情報、工学の協働を目指します。文理の別に拘わらず、人間や社会で生起する事象に対する幅広い知的好奇心と、データや論理的思考で自ら解明していく意欲及び探究力を持っており、その結果を社会での発信や実践につなげる意志を持つ人。
2. 人間の文化や社会に関心を持ち、コンピュータや情報通信技術に興味を持ち、自分の手でものを作ることが好きな人。
3. データサイエンスの基礎知識を用いた社会や文化の分析に関心を持ち、将来、データサイエンスや情報通信技術の知識や技能を活用する職業につきたい人。
4. 文化の創造に関心を持ち、データサイエンスや工学の基礎知識や技能を用いた作品の創造や発信、多様な人々との協働を通じた社会での実践を志す人。

【選考方法】

○学校推薦型選抜、帰国生徒・外国学校出身者特別選抜

出願書類によって第1次選考を行います。第1次選考では、高校での学習状況と志望理由が本学科の受け入れ方針と合致しているかどうかを中心に判定します。第2次選考では、小論文と面接により、文化情報工学の学修に必要とされる基礎学力と応用力、思考力と対話力を総合的に判定します。小論文は、課題文の読解とそれに対する自分の考えを述べる課題と、データサイエンス・工学の考え方の理解を問う2つの課題からなり、読解力、表現力、論理の展開力を判定します。面接（口述試験を含む）では、本学科の分野に対する関心や問題意識の高さ、及び自らの志向と個性を相手に的確に伝えるコミュニケーション能力を評価します。

帰国生徒・外国学校出身者特別選抜では、学校推薦型選抜と同様の基準と判定に加えて、外国における学校生活から何を学んだのか、及びそれを本学の入学後にどのように活かそうと考えているのかが問われます。

○前期日程

大学入学共通テストでは、文理の双方について、高校で修得すべき幅広い基礎知識と基本的な思考力を評価します（国語、地歴公民、数学、理科、外国語、情報の6又は7教科8科目）。

教科・科目に係る個別テストでは、専門分野の内容を理解し、さらに掘り下げるために必要な教科について、知識と思考力・表現力を評価します。

英語を必須とし、国語又は数学を選択します。英語では大学での専門的知識の習得や情報交換、思考の涵養に欠かすことのできない英語の基礎能力を評価し、国語では文化情報工学にかかわる学問分野の専門書や学術論文などの内容を理解するために求められる読解力と自分の考えを正確に相手に伝えるための表現力を、数学では基本となる知識・技能や論理的思考を展開するための能力を評価します。国語又は数学を選択できるようにすることで、文系・理系の双方の志望者が、対等な条件（配点）で受験できるようにしています。

Ⅱ　学部・学科別募集人員

学部	学科等		入学定員	一般選抜 前期日程 (*1) (*2) (*4)	一般選抜 後期日程	特別選抜 学校推薦型選抜	特別選抜 帰国生徒等 (*4)	特別選抜 私費外国人留学生	特別選抜 総合型選抜（新フンボルト入試）
文教育学部	人文科学科		５０	３２	８	１０	若干名	若干名	文系全体で１２名 (*2)
	言語文化学科		７３	５９	－(*3)	１４	若干名	若干名	
	人間社会科学科（＊８）		３７（２５）	２２（１２）	５（３）	１０（１０）	若干名（若干名）	若干名（若干名）	
	芸術・表現行動学科	舞踊教育学専修プログラム	２５	１２	－(*3)	２	若干名	若干名	－(*5)
		音楽表現専修プログラム		５	２	４	若干名	若干名	
	計		１８５	１３０	１５	４０			
理学部	数学科		２０	１４	３	－(*6)	若干名	若干名	３
	物理学科		２０	１４	３		若干名	若干名	３
	化学科		２０	１５	３		－(*7)	若干名	２
	生物学科		２４	１７	３		若干名	若干名	４
	情報科学科		３６	２１	８		若干名	若干名	７
	計		１２０	８１	２０				１９
生活科学部	食物栄養学科		３６	３１	３	－(*6)	－(*7)	若干名	２
	人間生活学科		３９	３２	－(*3)	７	若干名	若干名	文系全体で１２名 (*2)
	心理学科		２６	２３	－(*3)	３	若干名	若干名	
	計		１０１	８６	３	１０			２
共創工学部	人間環境工学科		２６	１９	５	－(*6)	－(*7)	若干名	２
	文化情報工学科		２０	１４	－(*3)	６	若干名	若干名	文系全体で１２名 (*2)
	計		４６	３３	５	６			２
	合計		４５２	３３０	４３	５６			２３

〔注〕

(*1)「高大連携特別選抜」－本学附属高等学校からの学校推薦型選抜－(共創工学部を除く3学部で定員10名)は、前期日程に含む。

(*2)文系学科（文教育学部人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、生活科学部人間生活学科、心理学科及び共創工学部文化情報工学科）における「総合型選抜」の募集人員(12名)は、前期日程に含む。

(*3)文教育学部言語文化学科、文教育学部芸術・表現行動学科「舞踊教育学専修プログラム」、生活科学部人間生活学科、生活科学部心理学科及び共創工学部文化情報工学科では、前期日程のみの募集で、後期日程の募集は行わない。

(*4)「帰国生徒等」は「帰国生徒・外国学校出身者特別選抜」を表し、合格者(若干名)は、前期日程の合格者に含む。

(*5)文教育学部芸術・表現行動学科では総合型選抜の募集は行わない。

(*6)理系学科（理学部全学科、生活科学部食物栄養学科及び共創工学部人間環境工学科）では、学校推薦型選抜の募集は行わない。

(*7)理学部化学科、生活科学部食物栄養学科及び共創工学部人間環境工学科では、帰国生徒・外国学校出身者特別選抜の募集は行わない。

(*8)文教育学部人間社会科学科の各選抜の募集人員の( )は「教育科学・子ども学コース」の募集人員を内数で示す。学校推薦型選抜と帰国生徒・外国学校出身者特別選抜では、人間社会科学科教育科学・子ども学コースのみの募集となる。人間社会科学科に出願をする方は、ホームページの注意事項を確認してください。
https://www.ao.ocha.ac.jp/news/d013168.html

Ⅲ 入学者選抜日程

入試種別	出願期間(*4)	試験日	合格発表	入学手続
一般選抜 (前期日程)	令和８年 １月 26 日(月) ～２月 ４日(水) (１月 23 日(金)9:00 ～２月 ４日(水)8:59)	令和８年 ２月 25 日(水) ～２月 26 日(木)(*1)	令和８年 ３月 ９日(月)	令和８年 ３月 10 日(火) ～３月 15 日(日)
一般選抜 (後期日程) (*2)		令和８年 ３月 12 日(木)	令和８年 ３月 20 日(金)	令和８年 ３月 21 日(土) ～３月 27 日(金)
文系総合型選抜 (新フンボルト入試)	令和７年 ９月 １日(月) ～９月 ２日(火) (８月 29 日(金)9:00 ～９月 ２日(火)8:59)	〔第１次選考〕 (プレゼミナール) 令和７年 ９月 27 日(土) 〔第２次選考〕 令和７年 10 月 18 日(土) ～10 月 19 日(日)	〔第１次選考〕 令和７年 10 月 ３日(金) 〔第２次選考〕 令和７年 11 月 １日(土)	令和７年 12 月 19 日(金) ～12 月 25 日(木)
理系総合型選抜 (新フンボルト入試)	令和７年 10 月 21 日(火) ～10 月 23 日(木) (10 月 17 日(金)9:00 ～10 月 23 日(木)8:59)	〔第１次選考〕 書類選考 〔第２次選考〕 令和７年 12 月 ６日(土)	〔第１次選考〕 令和７年 11 月 14 日(金) 〔第２次選考〕 令和７年 12 月 18 日(木)	令和７年 12 月 19 日(金) ～12 月 25 日(木)
学校推薦型選抜	令和７年 11 月 ４日(火) ～11 月 ５日(水) (10 月 31 日(金)9:00 ～11 月 ５日(水)8:59)	〔第１次選考〕 書類選考 〔第２次選考〕 令和７年 12 月 ６日(土) ～12 月 ７日(日)(*3)	〔第１次選考〕 令和７年 11 月 14 日(金) 〔第２次選考〕 令和７年 12 月 18 日(木)	令和７年 12 月 19 日(金) ～12 月 25 日(木)
帰国生徒・外国学校 出身者特別選抜	令和７年 10 月 21 日(火) ～10 月 23 日(木) (10 月 17 日(金)9:00 ～10 月 23 日(木)8:59)	〔第１次選考〕 書類選考 〔第２次選考〕 令和７年 12 月 ６日(土) ～12 月 ７日(日)(*3)	〔第１次選考〕 令和７年 11 月 14 日(金) 〔第２次選考〕 令和７年 12 月 18 日(木)	令和７年 12 月 19 日(金) ～12 月 25 日(木)
私費外国人留学生 特別選抜	令和７年 12 月 ９日(火) ～12 月 11 日(木)	令和８年 ２月 25 日(水) ～２月 26 日(木)	令和８年 ３月 ９日(月)	令和８年 ３月 10 日(火) ～３月 15 日(日)

〔注〕

(*1) 一般選抜(前期日程)の ２ 月 26 日(木)は、「文教育学部芸術・表現行動学科」、「理学部全学科」、「生活科学部食物栄養学科」、「共創工学部人間環境工学科」のみ実施します。

(*2) 「文教育学部言語文化学科」、「文教育学部芸術・表現行動学科舞踊教育学専修プログラム」、「生活科学部人間生活学科」、「生活科学部心理学科」、「共創工学部文化情報工学科」は、一般選抜(後期日程)を行いません。

(*3) 学校推薦型選抜、帰国生徒・外国学校出身者特別選抜第2次選考の 12 月 ７日(日)は、文教育学部全学科及び、「共創工学部文化情報工学科」のみ実施します。

(*4) 出願期間の括弧内はインターネット出願登録期間です。(私費外国人留学生特別選抜は紙願書による出願となります。)

○ 募集要項は本学入試情報ホームページに掲載します。(50 ページ参照)

Ⅳ 一般選抜

(学科のアドミッション・ポリシーについては 5 ページを参照)

1. 出願資格

下記のいずれかに該当する女子で、かつ、令和 8 年度大学入学共通テストの本学が指定した教科・科目を受験した者

(1) 高等学校(中等教育学校を含む)を卒業した者及び令和 8 年 3 月卒業見込みの者
(2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者及び令和 8 年 3 月修了見込みの者
(3) 学校教育法施行規則(昭和 22 年文部省令第 11 号)第 150 条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び令和 8 年 3 月 31 日までにこれに該当する見込みの者
(4) 上記(1)(2)(3)に該当しない者について、大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18 歳に達した者及び令和 8 年 3 月 31 日までに 18 歳に達する者。

令和 8 年度大学入学者選抜大学入学共通テスト受験案内の「出願資格と証明書類」の項を参照のこと。なお、(4)により本学へ出願を希望するものについては 49 ページ「入学資格個別審査」をよく読み事前に入試課まで申し出のうえ、申請期間中に審査書類を郵送すること。

2. 出願期間

前期日程	インターネット出願登録期間　令和 8 年 1 月 23 日(金)9:00～2 月 4 日(水)8:59 郵送出願期間　令和 8 年 1 月 26 日(月)～2 月 4 日(水)までに【必着】 この期間中に、インターネット出願の登録と検定料の納入を済ませ、 なおかつ出願書類が本学に到着するよう送付すること。 ただし 2 月 3 日(火)以前の発信局消印のある書留速達に限り、期限後に到着した場合でも受理する。
後期日程	

出願書類は一括して、「書留速達」で下記宛に郵送すること。

〔送　付　先〕　〒112-8610　東京都文京区大塚2丁目 1 番 1 号
お茶の水女子大学　入試課

3. 出願について

(1) 他の国公立大学との併願について
【前期日程】と【後期日程】において2つの国公立大学に出願する場合は、「前期－前期」、「後期－後期」の組み合わせで併願することはできない。
(2) 本学の併願について
本学の【前期日程】に出願する者が、本学の【後期日程】を併願してもよい。
なお【前期日程】と【後期日程】で志望する学部・学科が異なっても差し支えないが、【前期日程】、【後期日程】のいずれも1つの学部・学科に限る。
(3) 本学又は他の国公立大学(独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。
公立大学協会ホームページ((URL https://www.kodaikyo.org)参照。以下同じ)の【前期日程】に合格し、入学手続を行った者は、【後期日程】を受験してもその合格者とはならない。
また、国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名、高等学校コード及び大学入学共通テストの受験番号に限って、合否及び入学手続等に関する個人情報が、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達される。
(4) 本学又は他の国公立大学の総合型選抜及び学校推薦型選抜の合格者は、本学の教科・科目に係る個別テスト等(第2次試験)を受験してもその合格者とはならない。
ただし、当該大学の総合型選抜及び学校推薦型選抜の辞退を許可された者は除く。

4. 入学者選抜方法

入学者の選抜は、本学が課す大学入学共通テスト、教科・科目に係る個別テスト、面接(口述試験を含む)、小論文、論述試験、実技検査の結果及び調査書等の提出書類の内容を総合して判定する。

5. 大学入学共通テストで受験を要する教科等

本学に入学を希望する者は、本学が指定する教科・科目を全て受験しなければなりません。
なお、本学では大学入学共通テストの過年度成績は利用しません。

◆ 文教育学部

学科等	選抜方法の区分	大学入学共通テストで入学志願者に解答させる教科・科目名		受験を要する教科・科目数
人文科学科	前期日程	国語 地理歴史 公民※ 数学 理科 外国語 情報	「国語」 (「地理総合，地理探究」、「歴史総合，日本史探究」、「歴史総合，世界史探究」、「公共，倫理」、「公共，政治・経済」)から2科目 「数学Ⅰ，数学A」と「数学Ⅱ，数学B，数学C」 (「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)から1科目 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」)から1科目 「情報Ⅰ」	6又は7教科 8科目
	後期日程	国語 地理歴史 公民 理科 数学 外国語 情報	「国語」 (「地理総合，地理探究」、「歴史総合，日本史探究」、「歴史総合，世界史探究」、「公共，倫理」、「公共，政治・経済」)から1科目又は、 (「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)から1科目 「数学Ⅰ，数学A」と「数学Ⅱ，数学B，数学C」 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」)から1科目 「情報Ⅰ」 から3教科＊	3教科 3又は4科目
言語文化学科	前期日程	国語 地理歴史 公民※ 数学 理科 外国語 情報	「国語」 (「地理総合，地理探究」、「歴史総合，日本史探究」、「歴史総合，世界史探究」、「公共，倫理」、「公共，政治・経済」)から2科目 「数学Ⅰ，数学A」と「数学Ⅱ，数学B，数学C」 (「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)から1科目 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」)から1科目 「情報Ⅰ」	6又は7教科 8科目
人間社会科学科	前期日程	国語 地理歴史 公民※ 数学 理科 外国語 情報	「国語」 (「地理総合，地理探究」、「歴史総合，日本史探究」、「歴史総合，世界史探究」、「公共，倫理」、「公共，政治・経済」)から2科目 「数学Ⅰ，数学A」と「数学Ⅱ，数学B，数学C」 (「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)から1科目 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」)から1科目 「情報Ⅰ」	6又は7教科 8科目
	後期日程	国語 地理歴史 公民※ 数学 理科 外国語 情報	「国語」 (「地理総合，地理探究」、「歴史総合，日本史探究」、「歴史総合，世界史探究」、「公共，倫理」、「公共，政治・経済」)から2科目 「数学Ⅰ，数学A」と「数学Ⅱ，数学B，数学C」 (「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)から1科目 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」)から1科目 「情報Ⅰ」	6又は7教科 8科目
芸術・表現行動学科舞踊教育学専修プログラム	前期日程	国語 地理歴史 公民※ 数学 理科 外国語 情報	「国語」 (「地理総合，地理探究」、「歴史総合，日本史探究」、「歴史総合，世界史探究」、「公共，倫理」、「公共，政治・経済」)から2科目 「数学Ⅰ，数学A」と「数学Ⅱ，数学B，数学C」 (「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)から1科目 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」)から1科目 「情報Ⅰ」	6又は7教科 8科目
芸術・表現行動学科音楽表現専修プログラム	前期日程	国語 地理歴史 公民※ 数学 理科 外国語 情報	「国語」 (「地理総合，地理探究」、「歴史総合，日本史探究」、「歴史総合，世界史探究」、「公共，倫理」、「公共，政治・経済」)から2科目 「数学Ⅰ，数学A」と「数学Ⅱ，数学B，数学C」 (「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)から1科目 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」)から1科目 「情報Ⅰ」	6又は7教科 8科目

	後期日程	国語 数学 外国語	「国語」 「数学Ⅰ, 数学A」と「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」)から1科目	3教科 4科目

※ 地理歴史・公民において2科目解答する場合、「公共, 倫理」と「公共, 政治・経済」の組み合わせを選択することはできない。

＊ 文教育学部人文科学科の後期日程の大学入学共通テストでは、『「国語」、「地理歴史・公民、理科から1」、「数学」、「外国語」、「情報」』から3教科を受験するものとする。
また、「地理歴史・公民」又は「理科」で1科目を選択する場合は、第1解答科目を当該教科の成績とした上で、指定した教科の範囲内で4教科以上受験した場合は、高得点の順に3教科の成績を用いる。

◆ 理 学 部

学 科	選抜方法の区分	大学入学共通テストで入学志願者に解答させる教科・科目名		受験を要する教科・科目数
数 学 科	前期日程	国語 地理歴史 公民 数学 理科 外国語 情報	「国語」 (「地理総合, 地理探究」、「歴史総合, 日本史探究」、「歴史総合, 世界史探究」、「公共, 倫理」、「公共, 政治・経済」、「地理総合／歴史総合／公共」)から1科目 「数学Ⅰ, 数学A」と「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」 (「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)から2科目 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」)から1科目 「情報Ⅰ」	6又は7教科 8科目
	後期日程	数学 理科 外国語	「数学Ⅰ, 数学A」と「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」 (「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)から2科目 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」)から1科目	3教科 5科目
物 理 学 科	前期日程 後期日程	国語 地理歴史 公民 数学 理科 外国語 情報	「国語」 (「地理総合, 地理探究」、「歴史総合, 日本史探究」、「歴史総合, 世界史探究」、「公共, 倫理」、「公共, 政治・経済」、「地理総合／歴史総合／公共」)から1科目 「数学Ⅰ, 数学A」と「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」 「物理」と(「化学」、「生物」、「地学」)から1科目の計2科目 「英語―リスニングを含む―」 「情報Ⅰ」	6又は7教科 8科目
化 学 科	前期日程 後期日程	国語 地理歴史 公民 数学 理科 外国語 情報	「国語」 (「地理総合, 地理探究」、「歴史総合, 日本史探究」、「歴史総合, 世界史探究」、「公共, 倫理」、「公共, 政治・経済」、「地理総合／歴史総合／公共」)から1科目 「数学Ⅰ, 数学A」と「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」 「化学」と(「物理」、「生物」、「地学」)から1科目の計2科目 「英語―リスニングを含む―」 「情報Ⅰ」	6又は7教科 8科目
生 物 学 科	前期日程 後期日程	国語 地理歴史 公民 数学 理科 外国語 情報	「国語」 (「地理総合, 地理探究」、「歴史総合, 日本史探究」、「歴史総合, 世界史探究」、「公共, 倫理」、「公共, 政治・経済」、「地理総合／歴史総合／公共」)から1科目 「数学Ⅰ, 数学A」と「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」 「生物」と(「物理」、「化学」、「地学」)から1科目の計2科目 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」)から1科目 「情報Ⅰ」	6又は7教科 8科目
情報科学科	前期日程 後期日程	国語 地理歴史 公民 数学 理科 外国語 情報	「国語」 (「地理総合, 地理探究」、「歴史総合, 日本史探究」、「歴史総合, 世界史探究」、「公共, 倫理」、「公共, 政治・経済」、「地理総合／歴史総合／公共」)から1科目 「数学Ⅰ, 数学A」と「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」 (「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)から2科目 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」)から1科目 「情報Ⅰ」	6又は7教科 8科目

◆ 生活科学部

学 科	選抜方法の区分	大学入学共通テストで入学志願者に解答させる教科・科目名		受験を要する教科・科目数
食物栄養学科	前期日程	国語 地理歴史 公民 数学 理科 外国語 情報	「国語」 (「地理総合, 地理探究」、「歴史総合, 日本史探究」、「歴史総合, 世界史探究」、「公共, 倫理」、「公共, 政治・経済」)から1科目 「数学Ⅰ, 数学A」と「数学Ⅱ, 数学B, 数学C」 (「物理」、「化学」、「生物」)から2科目 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」)から1科目 「情報Ⅰ」	6教科 8科目

食物栄養学科	後期日程	国語 地理歴史 公民 数学 理科 外国語	「国語」 (「地理総合，地理探究」、「歴史総合，日本史探究」、「歴史総合，世界史探究」、「公共，倫理」、「公共，政治・経済」)から1科目 「数学Ⅰ，数学A」と「数学Ⅱ，数学B，数学C」 (「物理」、「化学」、「生物」)から2科目 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」)から1科目	5教科 7科目
人間生活学科	前期日程	国語 地理歴史 公民※ 数学 理科 外国語 情報	「国語」 (「地理総合，地理探究」、「歴史総合，日本史探究」、「歴史総合，世界史探究」、「公共，倫理」、「公共，政治・経済」)から2科目 「数学Ⅰ，数学A」と「数学Ⅱ，数学B，数学C」 (「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)から1科目 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」)から1科目 「情報Ⅰ」	6又は7教科 8科目
心理学科	前期日程	国語 地理歴史 公民 数学 理科 外国語 情報	「国語」 (「地理総合，地理探究」、「歴史総合，日本史探究」、「歴史総合，世界史探究」、「公共，倫理」、「公共，政治・経済」、「地理総合／歴史総合／公共」)から1科目 「数学Ⅰ，数学A」と「数学Ⅱ，数学B，数学C」 (「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)から1科目 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」)から1科目 「情報Ⅰ」	6又は7教科 7科目

※ 地理歴史・公民において2科目解答する場合、「公共，倫理」と「公共，政治・経済」の組み合わせを選択することはできない。

◆ 共創工学部

学科	選抜方法の区分	大学入学共通テストで入学志願者に解答させる教科・科目名		受験を要する教科・科目数
人間環境工学科	前期日程 後期日程	国語 地理歴史 公民 数学 理科 外国語 情報	「国語」 (「地理総合，地理探究」、「歴史総合，日本史探究」、「歴史総合，世界史探究」、「公共，倫理」、「公共，政治・経済」)から1科目 「数学Ⅰ，数学A」と「数学Ⅱ，数学B，数学C」 (「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)から2科目 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」)から1科目 「情報Ⅰ」	6教科 8科目
文化情報工学科	前期日程	国語 地理歴史 公民※＊ 数学 理科＊ 外国語 情報	「国語」 (「地理総合，地理探究」、「歴史総合，日本史探究」、「歴史総合，世界史探究」、「公共，倫理」、「公共，政治・経済」)から1又は2科目 「数学Ⅰ，数学A」と「数学Ⅱ，数学B，数学C」 (「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)から1又は2科目 (「英語―リスニングを含む―」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」)から1科目 「情報Ⅰ」	6又は7教科 8科目

※ 地理歴史・公民において2科目解答する場合、「公共，倫理」と「公共，政治・経済」の組み合わせを選択することはできない。

＊ 文化情報工学科では、「地理歴史・公民」及び「理科」から3科目を受験すること。「地理歴史・公民」1科目と「理科」2科目を受験する場合は、「理科」は「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」を除く4科目から2科目を受験すること。「地理歴史・公民」2科目と「理科」において「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」を含めた2科目を受験した場合は、「地理歴史・公民」2科目と「理科」の第1解答科目の合計3科目の成績を用いる。「地理歴史・公民」2科目と「理科」において「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」を除く4科目から2科目を受験した場合は、「地理歴史・公民」と「理科」それぞれの第1解答科目と、「地理歴史・公民」と「理科」それぞれの第2解答科目のうち高得点の科目の合計3科目の成績を用いる。

〔注〕(4学部共通)

○ 「地理歴史・公民」及び「理科」の各試験時間において2科目を受験する場合、試験時間の前半に受験した科目を“第1解答科目”、後半に受験した科目を“第2解答科目”とする。

○ 「地理歴史・公民」で1科目のみ配点する学部・学科において、2科目を受験した場合は、“第1解答科目”として受験した科目の成績を用いる。「理科」で1科目のみ配点する学部・学科において、2科目を受験した場合は、“第1解答科目”として受験した科目の成績を用いる。

○ 大学入学共通テストにおいて、本学が指定する教科、科目を受験していない者(指定された教科・科目を第1解答科目として受験していない者も含む)は出願無資格者となり、本学の個別テストを受験することはできないので、十分注意すること。

6. 本学における個別テスト

(1) 個別テスト実施日

【前期日程】

学　　部	検　査　日	備　　考
文教育学部	令和8年2月25日(水)・26日(木)	26日(木)は芸術･表現行動学科実技検査のみ
理　学　部	令和8年2月25日(水)・26日(木)	
生活科学部	令和8年2月25日(水)・26日(木)	26日(木)は食物栄養学科のみ
共創工学部	令和8年2月25日(水)・26日(木)	26日(木)は人間環境工学科のみ

【後期日程】

学　　部	検　査　日	備　　考
文教育学部	令和8年3月12日(木)	
理　学　部	令和8年3月12日(木)	数学科、物理学科は個別テストを課さない。
生活科学部	令和8年3月12日(木)	
共創工学部	令和8年3月12日(木)	

(2) 個別テスト教科、科目等

本学に入学を希望する者は、大学が指定する教科、科目等を全て受験しなければなりません。

◆ 文教育学部

学科等	選抜方法の区分	出題教科等	出題科目(出題範囲)	備考
人文科学科	前期日程	国語 数学 外国語	現代の国語・言語文化・論理国語・古典探究 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B・数学C　から1 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ	
	後期日程	小論文（英和辞典（電子式を除く）持込可能）		
言語文化学科	前期日程	国語 外国語	現代の国語・言語文化・論理国語・古典探究 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ	
人間社会科学科	前期日程	国語 数学 外国語	現代の国語・言語文化・論理国語・古典探究 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B・数学C　から1 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ	
	後期日程	小論文		
芸術･表現行動学科 舞踊教育学 専修プログラム	前期日程	国語 数学 外国語 実技	現代の国語・言語文化・論理国語・古典探究 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B・数学C　から1 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ 舞踊実技検査	
芸術･表現行動学科 音楽表現 専修プログラム	前期日程	国語 数学 外国語 実技	現代の国語・言語文化・論理国語・古典探究 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B・数学C　から1 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ 音楽実技検査	
	後期日程	実技	音楽実技検査	

（出題範囲に関する注意事項）

数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Aは、全範囲から出題する。数学Bについては「数列」、数学Cについては「ベクトル」を出題範囲とする。

◆ 理 学 部

学　科	選抜方法の区分	出題教科等	出題科目(出題範囲)	備考
数　学　科	前期日程	数学 理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C 物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物　から1 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ	
	後期日程	個別テストは課さない		
物 理 学 科	前期日程	数学 理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C 物理基礎・物理 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ	
	後期日程	個別テストは課さない		
化　学　科	前期日程	数学 理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C 化学基礎・化学と、物理基礎・物理、生物基礎・生物　から1 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ	
	後期日程	論述試験		
生 物 学 科	前期日程	数学 理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C 生物基礎・生物と、物理基礎・物理、化学基礎・化学　から1 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ	
	後期日程	面接(口述試験を含む)		
情 報 科 学 科	前期日程	数学 数学･理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C、物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物　から2 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ	
	後期日程	論述試験		

(出題範囲に関する注意事項)

1 数学Ⅰ･数学Ⅱ･数学Ⅲ･数学Aは、全範囲から出題する。数学Bについては「数列」、数学Cについては「ベクトル」、「平面上の曲線と複素数平面」を出題範囲とする。

2 「物理基礎･物理」については、物理基礎、物理の全範囲から出題、「化学基礎･化学」については、化学基礎、化学の全範囲から出題、「生物基礎･生物」については、生物基礎、生物の全範囲から出題する。

◆ 生活科学部

学　科	選抜方法の区分	出題教科等	出題科目(出題範囲)	備考
食 物 栄 養 学 科	前期日程	数学 理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B・数学C 物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物　から1 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ	
	後期日程	面接		
人 間 生 活 学 科	前期日程	国語 数学 外国語	現代の国語・言語文化・論理国語・古典探究 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B・数学C　} から1 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ	
心　理　学　科	前期日程	国語 数学 外国語	現代の国語・言語文化・論理国語・古典探究 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B・数学C　} から1 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ	

(出題範囲に関する注意事項)

1 数学Ⅰ･数学Ⅱ･数学Aは、全範囲から出題する。数学Bについては「数列」、数学Cについては「ベクトル」を出題範囲とする。

2 「物理基礎･物理」については、物理基礎、物理の全範囲から出題、「化学基礎･化学」については、化学基礎、化学の全範囲から出題、「生物基礎･生物」については、生物基礎、生物の全範囲から出題する。

◆ 共創工学部

学　科	選抜方法の区分	出題教科等	出題科目(出題範囲)	備考
人間環境工学科	前期日程	数学 数学･理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B・数学C 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C、物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物　から2 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ	
	後期日程	面接		
文化情報工学科	前期日程	国語 数学 外国語	現代の国語・言語文化・論理国語・古典探究 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B・数学C　} から1 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ・英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅢ	

(出題範囲に関する注意事項)

1 数学Ⅰ･数学Ⅱ･数学Ⅲ･数学Aは、全範囲から出題する。数学Bについては「数列」を出題範囲とする。数学Cについては「ベクトル」を出題範囲とするが、人間環境工学科の「数学･理科」では「平面上の曲線と複素数平面」からも出題する。

2 「物理基礎･物理」については、物理基礎、物理の全範囲から出題、「化学基礎･化学」については、化学基礎、化学の全範囲から出題、「生物基礎･生物」については、生物基礎、生物の全範囲から出題する。

(3) 試験教科・科目別配点(全学部共通事項)

大学入学共通テストの外国語「英語」については、リーディング(100 点)とリスニング(100 点)の合計得点を1:1の比率を変えず各学科等の配点に圧縮して換算する。(ただし、リスニング免除者を除く。)

【前期日程】【文教育学部】

試験区分		大学入学共通テスト*1						本学の試験					合計
教科・科目		国語	地歴公民	数学	理科	外国語	情報	*2 国語	*2 数学	外国語	実技	計	
人文科学科		400						(200)	(200)	200	—	400	800
言語文化学科		400						200	—	200	—	400	800
人間社会科学科		400						(200)	(200)	200	—	400	800
芸術・表現行動学科	舞踊教育学	400						(100)	(100)	100	200	400	800
	音楽表現	400						(200)	(200)	200	*3	400	800

〔注〕

*1 大学入学共通テストは、国語 200 点、地理歴史・公民 200 点(地理歴史から 1、公民から 1 の計2科目又は、地理歴史から2科目のいずれかの組み合わせ)、数学 200 点(2科目の合計点)、理科 100 点、外国語 200 点、情報 50 点の合計点 950 点を 400 点満点に換算する。

*2 人文科学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科は、本学の試験「国語、数学」から 1 教科選択。

*3 芸術・表現行動学科「音楽表現専修プログラム」の実技は、実技検査全科目(各科目 100 点満点)の平均点が 60 点未満若しくは 50 点未満の科目がある場合、不合格となる。

【前期日程】【理学部】

試験区分	大学入学共通テスト							本学の試験								合計
								数学 *3			理科 *3					
教科・科目	国語	*1 地歴公民	*2 数学	*2 理科	外国語	情報	計	数学共通	数学専門	数学	物理	化学	生物	外国語	計	
数学科	50	25	50	50	50	25	250	100	200	—	(100)	(100)	(100)	100	500	750
物理学科	25	25	50	50	100	25	275	100	—	100	200	—	—	50	450	725
化学科	100	50	100	100	100	50	500	100	—	—	(100)	250	(100)	100	550	1050
生物学科	50	25	100	100	100	25	400	100	—	—	(100)	(100)	200	100	500	900
情報科学科	100	50	100	100	100	50	500	200	—	(100)	(100)	(100)	(100)	100	500	1000

〔注〕

*1 大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から 1 科目選択。

*2 大学入学共通テスト「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の2科目の合計点とする。

*3 数学科、化学科、生物学科は本学の試験「理科」のうち配点に( )をつけたものから 1 科目選択、情報科学科は本学の試験「数学・理科」のうち配点に( )をつけたものから2科目選択。

【前期日程】【生活科学部】

試験区分	大学入学共通テスト							本学の試験					合計
教科・科目	国語	*1 地歴公民	*2 数学	*3 理科	外国語	情報	計	*4 国語	*4 数学	理科	外国語	計	
食物栄養学科	75	50	100	150	100	25	500	—	200	100	200	500	1000
人間生活学科	100	100	100	50	100	50	500	(250)	(250)	—	250	500	1000
心理学科	100	50	100	100	100	50	500	(250)	(250)	—	250	500	1000

〔注〕

*1 食物栄養学科、心理学科は大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から1科目選択。人間生活学科は「地理歴史」から 1、「公民」から 1 の計2科目、又は「地理歴史」から2科目選択。

*2 大学入学共通テスト「数学」は2科目の合計点とする。

*3 食物栄養学科の大学入学共通テスト「理科」は2科目の合計点とする。

*4 人間生活学科、心理学科は本学の試験「国語、数学」から 1 教科選択。

【前期日程】【共創工学部】

試験区分	大学入学共通テスト							本学の試験								合計
教科・科目	国語	地歴公民	*1 数学	理科	外国語	情報	計	*6 国語	*5 数学		*5 理科			外国語	計	
									*6 数学	数学	物理	化学	生物			
人間環境工学科	100	50*2	100	100*3	100	50	500	—	150	(100)	(100)	(100)	(100)	150	500	1000
文化情報工学科	100	(150)*4	100	(150)*4	100	50	500	(200)	(200)	—	—	—	—	200	400	900

〔注〕

*1 大学入学共通テスト「数学」は2科目の合計点とする。

*2 人間環境工学科は大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から1科目選択。

*3 人間環境工学科の大学入学共通テスト「理科」は2科目の合計点とする。

*4 文化情報工学科は大学入学共通テスト「地理歴史・公民、理科」から3科目選択。各科目50点として合計150点とする。

*5 人間環境工学科は本学の試験「数学・理科」のうち配点に( )をつけたものから2科目選択。

*6 文化情報工学科は本学の試験「国語、数学」から1教科選択。

【後期日程】【文教育学部】

試験区分		大学入学共通テスト							本学の試験			合計
教科・科目		国語	地歴公民	*4 数学	理科	外国語	情報	計	小論文	実技	計	
人文科学科 *1		(50)	(50)	(50)	(50)	(50)	(50)	150	100	—	100	250
人間社会科学科 *2		100	100	100	50	100	50	500	100	—	100	600
芸術・表現行動学科	音楽表現	100	—	100	—	200	—	400	—	*3	—	400

〔注〕

*1 人文科学科は、大学入学共通テスト「国語」、「地理歴史・公民、理科から 1」、「数学」、「外国語」、「情報」から3教科・科目を選択。人文科学科の本学の試験「小論文」は、英語文の短い論文をもとに日本語で論述する。なお、英和辞典(電子式を除く)の持込みを認める。

*2 人間社会科学科の大学入学共通テスト「地理歴史・公民」は、地理歴史から1、公民から1の計2科目又は地理歴史から2科目を選択。

*3 芸術・表現行動学科音楽表現専修プログラムの実技は、実技検査全科目(各科目 100 点満点)の平均点が 60 点未満若しくは 50 点未満の科目がある場合、不合格となる。

*4 大学入学共通テスト「数学」は2科目の合計点とする。

【後期日程】【理学部】

試験区分	大学入学共通テスト							本学の試験			合計
教科・科目	国語	*1 地歴公民	*2 数学	*2 理科	外国語	情報	計	論述試験	面接 (口述試験を含む)	計	
数学科	—	—	400	50	50	—	500	—	—	—	500
物理学科	50	50	200	200	100	50	650	—	—	—	650
化学科	100	50	100	200	100	50	600	150	—	150	750
生物学科	25	25	50	125	50	25	300	—	100	100	400
情報科学科	100	50	400	200	200	50	1000	200	—	200	1200

〔注〕

*1 大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から 1 科目選択。

*2 大学入学共通テスト「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の2科目の合計点とする。

【後期日程】【生活科学部】

試験区分	大学入学共通テスト							本学の試験	合計
教科・科目	国語	*1 地歴公民	*2 数学	*2 理科	外国語	情報	計	面接	
食物栄養学科	50	50	200	200	200	—	700	*3	700

〔注〕

*1 大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から 1 科目選択。

*2 大学入学共通テスト「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の2科目の合計点とする。

*3 本学の試験「面接」は、ABC評価により合格判定の資料とする。

【後期日程】【共創工学部】

試験区分	大学入学共通テスト							本学の試験	合計
教科・科目	国語	*1 地歴公民	*2 数学	*2 理科	外国語	情報	計	面接	
人間環境工学科	50	50	200	200	200	100	800	*3	800

〔注〕

*1 大学入学共通テスト「地理歴史・公民」から1科目選択。

*2 大学入学共通テスト「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の2科目の合計点とする。

*3 本学の試験「面接」は、ABC評価により合格判定の資料とする。

(4) 実技検査

○ 芸術・表現行動学科「舞踊教育学専修プログラム」志願者に次の検査を行う。

1 必須課題

舞踊・スポーツに必要な身体支配能力を見るための基礎運動

2 舞踊課題

下記の①と②を行う。

① 既成作品:モダンダンス、バレエ、日本舞踊、民族舞踊、マイム、新体操などの表現領域から作品を自由に選択し、1 分以内に演じる。自作・他作どちらでも可。

＜使用する音源について＞

・使用する音源は予め CD-R に録音(書き込み)し、持参すること。
・使用する CD-R には、受験番号と氏名を記入すること。
・音出しに関する受験者からのリクエストには対応できない。

＜録音(書き込み)に関する注意事項＞

・CD-R への録音(書き込み)は WAV や AIFF、MP3、WMA などのファイルを記録する「データ CD 形式」ではなく、一般の音楽 CD と同じ「オーディオ CD(CD-DA)形式」で行うこと。
・パソコンではなく CD レコーダーで録音する場合は、最後に必ずファイナライズをすること。ファイナライズをしていない CD-R は他の機器では再生不可能。
・録音(書き込み)をした CD-R は、必ずラジカセやミニコンポなど複数の CD プレーヤーで再生できることを確認の上、持参すること。

② 創作:課題は当日提示する。

・実技検査に持参するもの
① 体育館シューズ(全受験者)
② 各自課題に必要な服装〔ゼッケン(縦 15cm×横 20cm の白布に本学の受験番号を記入したもの)を前面に縫い付ける〕、用具、靴等
③ 音源
・「舞踊課題」の試験場の床はリノリウムである。松脂の使用は不可。また、タップダンスなどで底の硬い靴を使用する場合は、こちらで用意した 2m 四方の板の上で行う。
・「舞踊課題」の試験場の高さは 2m76cm と低いため、新体操等での手具を投げる演技は不可。
・大学ホームページ 舞踊教育学専修プログラム内「入試 実技に関する Q&A」を参照のこと。
https://www.li.ocha.ac.jp/ug/geijutsu/buyou/coursemenu/qanda.html

○芸術・表現行動学科「音楽表現専修プログラム」志願者に次の検査を行う。

1 ソルフェージュ:以下のa、b を実施する。[注1]

a. 聴　音(単旋律と2声体、及び4声体の和声)

b. 新曲視唱

2 演奏課題:以下のa、b、c を実施する。

a. 声楽:イタリア古典歌曲(原語、パリゾッティ版準拠[注 2])の中から任意の 1 曲を演奏すること。

b. ピアノ:以下の①と②をこの順番で演奏すること。

①音階(ハノン 39 番に準拠。全調より当日抽選によって決定した各自の課題調(長調とその平行調)を演奏[注 3]。

②J. S. バッハの《インヴェンション》又は《シンフォニア》から任意の 1 曲

c. 以下の①又は②のいずれかを選択すること。

① 声　楽 :日本歌曲又は、アリア(原語・原調)か外国歌曲(原語)の中から任意の 1 曲を演奏すること。

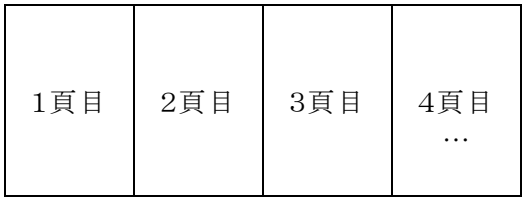
② ピアノ :ベートーヴェンのピアノソナタの中から任意の 1 曲の第一楽章を演奏すること。

☆注意点

・演奏実技は、全て暗譜で行うこと。

・声楽の演奏実技(a、及び、c①)について:伴奏は本学演奏員が行うので、下記要領で整えた伴奏譜を出願書類と共に送付すること。尚、伴奏譜は返却しない。

① 氏名を明記すること。
② 楽譜の大きさは、1 ページ縦 30cm×横 22cm 又は A4 縦とする。
③ 楽譜は、声部、歌詞及びピアノ伴奏部が記載されていること。
④ 楽譜は伴奏者が見やすく、扱いやすくするために画用紙程度の台紙に貼りつけて折本仕立てにして、各ページを全開できるように製本すること。



楽譜のつなぎ目をテープ等で留める

[注 1]
学校推薦型選抜、帰国生徒・外国学校出身者特別選抜及び私費外国人留学生特別選抜の実技検査については、「1.ソルフェージュ」のaを、次のとおり変更して実施し、他の検査は同様とする。
「a. 聴音(単旋律、及び2声体)」

[注 2, 3]
大学ホームページ　音楽表現専修プログラムページ内「実技検査に関するQ&A」を参照のこと。
https://www.li.ocha.ac.jp/ug/geijutsu/ongaku/coursemenu/qanda.html

Ⅴ　総合型選抜(新フンボルト入試)

1. 本学の教育理念と総合型選抜(新フンボルト入試)アドミッション・ポリシー

お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢の実現の場であることを使命とし、総合的な教養と高度な専門性を身につけた女性リーダーの育成を目指しています。そのため、21 世紀型文理融合リベラルアーツ教育、専門教育における複数プログラム選択履修制度、およびキャリア教育を3つの柱とする教育を展開しています。

こうした本学で学ぶことを志す意欲的で可能性に満ちた学生を受け入れるために平成 29 年度入試から導入された総合型選抜「新フンボルト入試」は、第1次選考のプレゼミナールと第2次選考の図書館入試・実験室入試の二段構えからなる、受験者の資質を丁寧にじっくりと見極めるユニークな入試です。

プレゼミナールでは文系・理系のさまざまな授業から一つを選んで、大学の授業を実際に体験してもらいます。文系では、プレゼミナールでのレポートと他の提出書類を評価して第1次選考を行い、第2次選考の「図書館入試」では附属図書館の資料を駆使してのレポート執筆とグループ討論や面接を通じて論理力や課題探究力・独創性などを評価します。理系はプレゼミナール参加は任意で、書類選考のみの第1次選考のあと第2次選考の「実験室入試」において、各学科の専門性に即した実験や実験演示、データの分析等の課題を課したり、高校での学びを活かした課題研究発表などを行ってもらい、探究する力を評価します。文系も理系も、いわゆるペーパーテストでは測れない潜在的な力(ポテンシャル)、単なる知識量の多寡ではなく知識を「応用」する力を評価します。

この新フンボルト入試を通して、基礎学力をしっかり身につけたうえで広く深くものごとを探究することのできる人、入学してからの学修で、さらには社会に出てから、あるいは大学院に進んで研究を続けていくなかで、ますますその才能を磨き伸ばしていけるような、豊かな可能性を持つ人を求めています。

2. 求める人物像

本学での勉学に強い意欲と専門性を磨いていくために必要となる十分な基礎的学力を持っていること。そしてそれに加えて、文理を問わずさまざまな事象に強い知的好奇心を持ち、そこで課題を自ら発見し、それを粘り強く探究していく力、独創的な解を導けるようなポテンシャルを備えている人を受け入れたいと思います。

具体的には、以下の項目のいずれかひとつ以上に当てはまる方を求めます。

1. 知識や意見を人に伝え、実践するためのコミュニケーション能力や応用力を備えている。
2. 真理の探究と価値の創造に対する憧憬と幅広い興味・関心を持っている。
3. 自分の将来と社会の未来へのビジョンを明確に持っている。
4. グローバルな視野を持って思考し、国際的な場での活動を希望している。

3. 学科のアドミッション・ポリシー

文系諸学科(文教育学部人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、生活科学部人間生活学科、心理学科及び共創工学部文化情報工学科)については、上記の総合型選抜(新フンボルト入試)アドミッション・ポリシーが基本的な受入方針となります。

さらに詳細な学科ごとのアドミッション・ポリシーは以下を参照してください。

◆ 文教育学部

【人文科学科】

人文科学科は、人類のさまざまな歩みの中から、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけ出し、必要な資料・データをねばり強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。

高校では、さまざまな教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心を持ったテーマについて自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探究の面白さを経験してきてほしいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある学生の皆さんの入学を希望します。

総合型選抜では、英・数・国の基礎学力をバランスよく備え、自分の将来像をある程度、具体的に持っている学生を望みます。

【言語文化学科】

言語文化学科では、日本語・日本文学、中国語圏言語文化、英語圏言語文化、仏語圏言語文化という4つのプログラムを開設しており、当該の言語の深い理解と高度な運用能力を身に付けることを目指し、それぞれの言語圏の文学や文化の本格的な分析を行います。そのためにこれらプログラムのいずれにおいても、文理両分野における十分な基礎学力と、旺盛な好奇心と、言葉への愛着を持ち、主体性と協働性を持って行動できる学生を求めます。

【人間社会科学科】

人間社会科学科では、人間について深い理解を持ち、その理解を現実的な場面で役立てていこうとする意欲ある人を求めます。当学科には、人間の発達について多角的に考えたり(教育科学)、人間の意識や行動の社会的側面を考えたり(社会学)、子どもが育つ環境や文化について考える(子ども学)という、3つの研究領域がありますが共通しているのは、自分を含めた「人間」に対するあくなき好奇心です。人間に関わる諸問題を学問的に解明したり、そこで得られた知識を実際に役立てていきたいと考える学生の進学を期待します。

高校ではさまざまな教科や科目について幅広く学んでください。特に、国語・英語(外国語)・数学は、大学での学修と研究にとって大変重要な基礎的能力を育成するのに必要です。また、地歴・公民や理科の学習を通じて、人間について深く考える姿勢と能力を身につけた学生を歓迎します。

(グローバル文化学(環)プログラムについて)

グローバル化する現代社会の課題を、①地域研究・地域文化、②多文化交流・多文化共生、③国際協力・国際関係、という3つの領域を組み合わせることで、動態的に捉え、実践的に学んでいこうというのが、グローバル文化学のコンセプトです。

その特徴は、文教育学部の3つの学科(人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科)のいずれの学生も、主プログラムとして選択できることです(各学科の学生数の15%程度を上限とします)*。また、所属学科のいずれかの副プログラムを履修することで、学際的な学びができます。このような特徴から「学環」と呼んでいます。

この学環での学修を希望する人は、自分の関心や得意分野にそって、受験する学科を選んでください。カリキュラムなど、さらに詳しい情報を知りたい人は、文教育学部グローバル文化学環のホームページにアクセスしてみてください。

* ただし、人間社会科学科は教育科学・子ども学コースを除きます。

◆ 理 学 部

【数学科】

数学は、あらゆる現象の背後にある数や図形の永久に変わらない真理を追究する学問です。それを学ぶことで、魂を揺さぶる美しいものや実生活で役に立つものに出会い、また世界を見通すための厳格な論証法を身につけられると考えます。

本学総合型選抜で求める人物像に加えて、上記のような観点から、数学科では主に以下のような目標を持った人を求めます。

教師や研究者のように数学を職業としたい人
数理的な素養を生かして社会を支える仕事につきたい人
とにかく数学に対して意欲を持って勉強したい人

志願者に求めるのは以下のことです。

高校での数学を十分に理解し、大学での講義に必要な数学の知識を身につけている。
文章から数学的な意味を読み取ることができる。
自分の考えを数学的、論理的な文章に表現して相手に伝えられる。

【物理学科】

自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望します。

更に、豊かな人間性とともに、他人との協調性に優れた人格が望まれ、忍耐力も必要です。卒業後には物理学の勉学を通して培った、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を各方面で発揮し、社会において指導的役割を果たす女性となることを期待しています。総合型選抜では、物理学に強い興味を持ち、物理コンテストなどへ積極的に参加した経験も評価します。また、大学での物理の授業を履修するうえで、高校での物理及び数学の十分な習得は必須ですので、これらの科目は指定科目になっています。

【化学科】

“化学”は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に関連しており、その領域は数学・物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学や地球科学の知識の必須な分野まで広がっています。したがって、高校では化学のほかにこれらの基礎となる数学や物理学の学習を通し、論理的な思考力の基礎をしっかりと身につけることに加え、生物学や地球科学を学び、広く自然科学の知識を身につけておくことが必要となります。また“化学”においては、実験と研究は表裏一体をなすものであることから、入学後には、実験を重視し、1年次から 3年次にわたり、多様な化学の各分野についての実験科目を必修として課しています。さらに4年次に進むと、これらの実験科目の集大成と実際の化学研究の現場に参画してもらう意味を込めて、卒業研究が行われます。

以上のことに鑑み、この総合型選抜では、“化学”を学ぶために必要な基礎的な学力に裏打された“化学”への深く強い興味と関心に基づく積極的な学習意欲に加えて、実験に主体的に取り組み、その結果を整理し、論理的に考察し、結論を引き出す力を評価します。

【生物学科】

生物学では、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのためには、いろいろな視点から考えることができる柔軟な思考力と、それを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーを持つ学生を希望します。“生き物”に関する理解と関心を深め、より多くの知の蓄積に貢献できる人材に育つことを期待しています。総合型選抜では特に、“生き物”の謎に対する探究心を重視し、生物学のさまざまな領域において高い問題意識を持って、積極的かつ行動的に自ら探究した経験を評価します。また、自然科学を広く学習して、科学的な基礎知識や考え方を備えていることも評価します。入学後は、1年生から研究室に入って研究ができる環境がありますので、生物学科のカリキュラムと合わせて、生物学の専門性を高めることを希望します。

【情報科学科】

情報科学はコンピュータの出現によってその存在と価値が確かめられた「情報」と呼ばれる概念を、エネルギーや物質と並ぶ世界の主要な構成要素として認識し、その生成、管理、利用に関する原理を探究する新しい学問分野です。今日、その応用は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学にも及んでいます。この奥深さを理解し、これまでの成果を学びたい人、さらに今後の進展に積極的に貢献したい人にぜひ進学してきてほしいと思います。情報科学は、これまでの数理科学や自然科学の考え方を偉大な先達として独自の方法論を展開しようとしていることから、広くかつ深い理系のセンスが問われます。情報科学を通じて 21 世紀の科学技術を支えるのは自分たち女性だと心底思っている人、あるいは思いたい人、あるいはそういわれて「そうなんだ」と今気づいた人を大歓迎します。

情報科学科の先輩たちの中には、有名な国際会議において自分の研究を発表してきた人達が少なくありません。これは深い専門的素養を身に付けた上でのたゆまない研究が可能としたものです。入学してから輝かしい活躍をするためには、まず情報科学の専門教育に励むことが必要です。入試の要件に数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、Cの全てを課しているのは、これを可能にするために最低限必要なことであり、講義や演習もこれらを習得していることを前提にして行われます。また情報科学では、ほとんどの新しい知識は英語で発信されるので、普通に情報科学を学ぶのにも基本として英語の実力が不可欠です。そして、一つの専門分野に閉じこもらず広くいろんな分野に通ずる学際性も必要です。理科の少なくとも1科目を要求しているのは学際性を支える最低の要件であり、その趣旨を全うするためには、本当は、少なくとも理科3科目を履修してきて欲しいところです。情報科学科では、高校で意欲的に学んできた、やる気に満ちた学生を歓迎します。

◆ 生活科学部

【食物栄養学科】

食物栄養学科は、豊かな食生活や健康な社会の実現に向けて、食物と栄養や健康に関する科学的視点と実践力を身につけた社会のリーダーとなる専門家の育成をめざしています。そのために食物と栄養に関する様々な学問分野において、分子、遺伝子、細胞レベルから人間栄養学的なものまで幅広く教育研究を行っています。

本学科の教育の特徴は、管理栄養士養成課程に必要な多数の実験や臨地実習を含む長時間にわたる実験・実習が必修となっていることです。実験・実習科目は1、2年より開講され、特に3年生の午後は毎日実験・実習が当てられています。所定単位を取り、本学科を卒業すると、栄養士資格が取得できると同時に、管理栄養士の国家試験受験資格と食品衛生監視員の任用資格が得られます。また、栄養教諭(一種)免許を取得することも可能です。

本学科の教育研究は実験科学を基盤とした上で生活や社会との接点を重視するため、本学に進学する学生には、忍耐強く実験・実習に取り組めること、自ら考え行動できること、他者とコミュニケーションをとりながらものごとを進められることを望みます。高等学校では、理数系の基礎をしっかり履修すること並びに生活に即した学習を重視すること、具体的には、理科については物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物のうち2科目以上を、数学については数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cを履修しておくこと、家庭科や体育などの実技科目にも積極的に取り組むことを求めます。

【人間生活学科】

本学科では、豊かな人間生活の実現を担う人材の育成を、「生活社会科学」、「生活文化学」という相互に関連する2つのアプローチを通して追求します。①生活社会科学:地域社会から国際社会まで、多元的な社会環境を視野に入れて、家族、消費者、女性、高齢者、子ども、制度と政策の問題などの生活と社会及びその関係についての社会科学的視点から分析し、政策の立案・提言を探究します。②生活文化学:人間にとって最も身近な服飾と住居、工芸、デザインなどの生活造形を生み出し、子どもを育んできた生活文化の歴史と現在について、比較文化的・民俗学的・歴史学的・保育学的視点から考察し、理解を深めます。これらの人間生活に関わる諸課題に関心があり、問題意識と研究意欲を持っている人、錯綜する現代の生活状況の中で、人間性を重視した社会を築

くために貢献したいと考えている人、潤いのある生活を実現しようという熱意を持っている人を歓迎します。本学科を志望する人は、人間生活学科の2つのアプローチを踏まえ、高等学校において地理歴史・公民などの社会科系の科目をしっかりと履修していることはもちろんのこと、英語、数学、国語をはじめ、高等学校における教科科目を偏り無く履修していることを強く望みます。

【心理学科】

心理学は、人間の心理的プロセスを科学的に解明し、エビデンスに基づいて人々の生活する環境や社会の課題解決を目指す学問領域です。この目的を理解して、人間の行動と心に関する科学的な見方と深い洞察力を磨き、現代の生活環境や社会の諸問題に取り組む研究意欲のある人、心の発達や健康への心理臨床的支援を行うことで社会に貢献しようという熱意のある人の進学を歓迎します。

志望する人は、高等学校において、国語・英語(外国語)・数学をはじめ、高等学校における教科科目を偏り無く履修していることを強く望みます。

◆ 共創工学部

【人間環境工学科】

人間環境工学科は社会課題の解決に向けて、主に社会科学知と工学・テクノロジを協働させることで社会イノベーションを推進する力の育成を目標とします。イノベーション推進には、技術開発に留まらず、ロジックモデルを用いることでプロセス全体を見通せることが求められ、この点が従来の工学とは異なる新しさとなります。

人間環境工学科においては、次のような学生を求めます。

1. 人々との協働のもと、イノベーションの社会実践を通じて新たな価値の創成にチャレンジする女性リーダーを目指す人。
2. 持続可能な環境を構想するために求められる科学的思考力と設計力を修得するのに必要な、理科系を中心とする基礎学力を持つ人。
3. 自然科学・工学と人文学・社会科学の協働、データサイエンスやICT(情報通信技術)に強い興味を持ち、人間、環境、材料分野などの工学系分野に関する専門知識の修得に意欲のある人。
4. 環境や社会から独自に疑問を見出す課題発見力と科学技術を用いた工学的アプローチによる問題解決策の発想力・設計力(デザイン力)を身につけたいと考える人。

【文化情報工学科】

文化情報工学科は、人間の文化に関する知(人文知)をデータサイエンスや工学と協働し、文化のイノベーションを推進する力の育成を目標とします。

文化情報工学は、人文知に工学を協働させることにより生み出される、人間の文化を尊重する新しいタイプの工学です。情報・工学技術を用いて、文学、言葉、芸術、思想、歴史、地理などに関する多種多様な情報をデジタル化(収集・生成・可視化)し、分析を行い、新たな作品や価値を創出します。

文化情報工学科においては、次のような学生を求めます。

1. 文化情報工学は、これまで別個に考えられてきた文化、情報、工学の協働を目指します。文理の別に拘わらず、人間や社会で生起する事象に対する幅広い知的好奇心と、データや論理的思考で自ら解明していく意欲及び探究力を持っており、その結果を社会での発信や実践につなげる意志を持つ人。
2. 人間の文化や社会に関心を持ち、コンピュータや情報通信技術に興味を持ち、自分の手でものを作ることが好きな人。
3. データサイエンスの基礎知識を用いた社会や文化の分析に関心を持ち、将来、データサイエンスや情報通信技術の知識や技能を活用する職業につきたい人。
4. 文化の創造に関心を持ち、データサイエンスや工学の基礎知識や技能を用いた作品の創造や発信、多様な人々との協働を通じた社会での実践を志す人。

4. 募集人員・出願資格等〔総合型選抜(新フンボルト入試)〕

(1)募集人員

	学部	学科	募集人員
文系学科	文教育学部	人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科	全体で12名
	生活科学部	人間生活学科、心理学科	
	共創工学部	文化情報工学科	
理系学科	理　学　部	数学科	3名
		物理学科	3名
		化学科	2名
		生物学科	4名
		情報科学科	7名
	生活科学部	食物栄養学科	2名
	共創工学部	人間環境工学科	2名

(2)出願資格

次の①～③の全ての要件に該当する女子

① 高等学校又は中等教育学校を令和 6 年 3 月以降卒業した者及び令和 8 年 3 月卒業見込みの者
（注） 出願者については、高等学校のほか高等専門学校及び高等部を置く特別支援学校並びに文部科学大臣から高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定された在外教育施設出身者を含む。

② お茶の水女子大学での勉学を強く希望し、合格した場合には必ず入学することを確約できる者

③ 学科別に指定されている下記の科目(指定科目)について、履修し単位を得ているか、入学時までに単位を修得見込みであること。調査書の学習成績概評がA段階以上であることが望ましい。

文教育学部	人文科学科	指定科目なし
	言語文化学科	指定科目なし
	人間社会科学科	数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・C　又は　理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論
理学部	数学科	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C　又は　理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論
	物理学科	物理基礎・物理及び数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C　又は　理数物理及び理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論
	化学科	化学基礎・化学、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・Cと、（物理基礎・物理）又は（生物基礎・生物）の２組のうちのいずれか１組 又は　理数化学、理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論と、（理数物理）又は（理数生物）の２組のうちのいずれか１組
	生物学科	生物基礎・生物、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・Cと、（物理基礎・物理）又は（化学基礎・化学）の２組のうちのいずれか１組 又は　理数生物、理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論と、（理数物理）又は（理数化学）の２組のうちのいずれか１組
	情報科学科	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C、情報Ⅰと、（物理基礎・物理）、（化学基礎・化学）、（生物基礎・生物）の３組のうちいずれか１組 又は　理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論、情報Ⅰと、（理数物理）、（理数化学）、（理数生物）の３組のうちのいずれか１組
生活科学部	食物栄養学科	数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・Cと、（物理基礎・物理）、（化学基礎・化学）、（生物基礎・生物）の３組から２組 又は　理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論と、（理数物理）、（理数化学）、（理数生物）の３組から２組
	人間生活学科	指定科目なし
	心理学科	数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・C　又は　理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論
共創工学部	人間環境工学科	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・Cと、（物理基礎・物理）、（化学基礎・化学）、（生物基礎・生物）の３組から２組 又は　理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論と、（理数物理）、（理数化学）、（理数生物）の３組から２組
	文化情報工学科	指定科目なし

◇ 旧教育課程履修者等に対しての総合型選抜における経過措置

総合型選抜の出願に際しては、旧教育課程履修者については下記の科目（指定科目）について、履修し単位を得ているか、入学時までに単位を修得見込であること。

文教育学部	人文科学科	指定科目なし
	言語文化学科	指定科目なし
	人間社会科学科	数学Ⅰ・Ⅱ・A・B　又は　理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論
理学部	数学科	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B　又は　理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論
	物理学科	物理基礎・物理及び数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B　又は　理数物理及び理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論
	化学科	化学基礎・化学、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bと、（物理基礎・物理）又は（生物基礎・生物）の２組のうちのいずれか１組 又は　理数化学、理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論と、（理数物理）又は（理数生物）の２組のうちのいずれか１組
	生物学科	生物基礎・生物、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bと、（物理基礎・物理）又は（化学基礎・化学）の２組のうちのいずれか１組 又は　理数生物、理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論と、（理数物理）又は（理数化学）の２組のうちのいずれか１組
	情報科学科	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bと、（物理基礎・物理）、（化学基礎・化学）、（生物基礎・生物）の３組のうちのいずれか１組 又は　理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論と、（理数物理）、（理数化学）、（理数生物）の３組のうちのいずれか１組
生活科学部	食物栄養学科	数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bと、（物理基礎・物理）、（化学基礎・化学）、（生物基礎・生物）の３組から２組 又は　理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論と、（理数物理）、（理数化学）、（理数生物）の３組から２組
	人間生活学科	指定科目なし
	心理学科	数学Ⅰ・Ⅱ・A・B　又は　理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論
共創工学部	人間環境工学科	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bと、（物理基礎・物理）、（化学基礎・化学）、（生物基礎・生物）の３組から２組 又は　理数数学Ⅰ・Ⅱ、理数数学特論と、（理数物理）、（理数化学）、（理数生物）の３組から２組
	文化情報工学科	指定科目なし

(3)出願期間

学科により、出願期間が異なるので注意すること。

当該期間中に、インターネット出願の登録と検定料の納入を済ませ、なおかつ出願書類が本学に到着するよう送付すること。

【文系学科】

インターネット出願登録期間　令和7年8月29日（金）9:00～9月2日（火）8:59

郵送出願期間　令和7年9月1日（月）～9月2日（火）【必着】

ただし、9月1日（月）以前の発信局消印のある書留速達に限り、期限後に到着した場合でも受理する。

（注）文系学科に出願するためには、プレゼミナール（文系）の申込が別途必要となる。詳細については、プレゼミナールのパンフレットを参照すること。

【理系学科】

インターネット出願登録期間　令和7年10月17日（金）9:00～10月23日（木）8:59

郵送出願期間　令和7年10月21日（火）～10月23日（木）【必着】

ただし、10月22日（水）以前の発信局消印のある書留速達に限り、期限後に到着した場合でも受理する

(4)第1次選考　文系〔9 月 27 日(土)〕、理系〔書類選考〕
文系学科志願者は、プレゼミナールのいずれかの文系セミナーを必ず受講すること。プレゼミナールの詳細については、「2025 年プレゼミナールのご案内」パンフレットを参照すること。セミナー受講後に作成するレポートや、出願時に提出する志望理由書・活動報告書・外国語試験成績等を総合的に評価し第1次選考を行う。
理系学科志願者は、プレゼミナールは任意参加とし、書類選考のみにて第1次選考を行う。
なお、プレゼミナールには受験者以外の高校2・3年生も参加できる。

(5)第2次選考　文系〔10 月 18 日(土)・19 日(日)〕、理系〔12 月 6 日(土)〕
①文系学科「図書館入試」
1 日目は、附属図書館の図書などを自由に参照しつつ課題についてのレポートを作成する。
2 日目は、グループ討論と面接を課す。
②理系学科「実験室入試」
それぞれの学科の特性を生かした丁寧な選考を実施する。

理学部	数学科	面接と口述試験を行う。口述試験は課題について考える時間が与えられた後、それに関して質疑応答をする形式で行う。
	物理学科	受験生は2つの性格の異なる面接 a)、b)を受ける(それぞれ20分)。b) の資料は事前に PDF 電子ファイルとして提出してください(形式、長さ任意)。 a)この面接直前に別室で物理の問題を解く。面接ではその解答をもとに質疑応答の中で、物理学・数学の基礎知識や応用力・計算力などをみる。 b)受験生が自分で探究した物理現象・理論・実験などを、提出された PDF ファイルをプロジェクター投影して説明する （10分ほど） 。それについての質疑応答の中で物理的洞察力や自分の考えの表現力をみる。
	化学科	あるテーマに関する実験を行い(演示実験を含む)、実験結果をまとめ考察する課題を課す。面接では、実験に関する質疑応答を行い実験内容の理解や思考力をみる。
	生物学科	「自主研究のポスター発表・質疑応答と口述試験」もしくは「論述試験と口述試験」のいずれかを出願時に選択する。「自主研究のポスター発表・質疑応答」では、出願時に提出したポスターを映写しながら 8 分程度の発表と 10 分程度の質疑応答を行い、課題発見・問題解決・研究意欲などを中心に能力を評価する。「論述試験」では、生物学に関する理解や問題解決を中心に能力を評価する。「口述試験」ではこれまでの活動実績や学習意欲、また一般的な面接内容も含めて総合的に評価する。
	情報科学科	基礎的数学力、論理的思考力、および問題解決能力をみるために、数学の問題に関する課題を2題課す。一定の考慮時間のあと面接形式で黒板を使って考えたことを説明する。
生活科学部	食物栄養学科	出願時に提出したポスター(1つのみ)に関して、縮小版ポスターを書画カメラで映写し、自主研究の発表と質疑応答を課す(ポスターの差し替えは認めない)。自主研究のテーマは広く食物栄養学に関連したものとする。個人面接も課す。
共創工学部	人間環境工学科	当日示される課題についての小論文作成を課し、論理的思考力をみる。また、口述試験を行い、自然科学に関する基礎学力(数学、物理、化学、生物のいずれか)および共創工学(人間、生活、環境分野)への応用力をみる。

※本入試の詳細については必ず大学ホームページ(https://www.ocha.ac.jp/)及び募集要項で確認してください。

Ⅵ 学校推薦型選抜

(学科のアドミッション・ポリシーについては 5 ページを参照)

1. 募集人員・出願要件〔学校推薦型選抜〕

◆ 文教育学部

募集人員		人 文 科 学 科(10 名) 言 語 文 化 学 科(14 名) 人間社会科学科教育科学・子ども学コース(10 名) 芸術・表現行動学科 舞踊教育学専修プログラム(2 名) 音楽表現専修プログラム(4 名)
出願資格		令和 7 年度中(令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月)に高等学校(中等教育学校を含む) を卒業又は卒業見込みの女子で、高等学校長が、以下の要件に該当すると認め、責任を持って推薦できる者
推薦要件	人 文 科 学 科	次の①又は②のいずれかに該当する者 ①調査書の学習成績概評が、Ａの者 ②次のａ～ｃのいずれかに該当する者 ａ．哲学、倫理学、美術史のいずれかの分野に対する強い関心を持ち、優れた能力を有する者 ｂ．歴史学に対する強い関心を持ち、優れた能力を有する者 ｃ．地理学に対する強い関心を持ち、優れた能力を有する者
	言 語 文 化 学 科	次の①と②の双方に該当する者 ①調査書の学習成績概評が、Ａの者 ②将来の専門的研究への意欲的なビジョンを持ち、次のいずれかに該当する者 ａ．「日本語・日本文学」：国語の成績がきわめて優秀で、日本語・日本文学の研究に強い意欲を有する者 ｂ．「中国語圏言語文化」：中国語又は国語又は英語の成績がきわめて優秀で、中国語・中国文学の研究に強い意欲を有する者 ｃ．「英語圏言語文化」：英語の成績がきわめて優秀で、英語や英語圏の文学・文化の研究に強い意欲を有する者 ｄ．「仏語圏言語文化」：フランス語又は英語又は国語の成績がきわめて優秀で、フランス語・フランス語圏の文化の研究に強い意欲を有する者
	人間社会科学科 教育科学・子ども学 コ ー ス	次の①と②の双方に該当する者 ①調査書の学習成績概評が、Ａの者 ②教育科学、子ども学のいずれかの勉学に強い意欲を有する者
	芸術・表現行動学科	次の①又は②のいずれかに該当する者 ①調査書の学習成績概評が、Ａの者 ②「舞踊教育学」：舞踊において、特に優れた能力と意欲を有する者 「音楽表現」　：音楽において、特に優れた能力と意欲を有する者
選考方法	出願書類の審査により第 1 次選考を行い、選考結果は令和 7 年 11 月 14 日(金)に通知する。	
	人 文 科 学 科 言 語 文 化 学 科 人間社会科学科 教育科学・子ども学 コ ー ス	第 2 次選考は、第 1 次選考合格者に対し、志望学科による小論文と面接(口述試験を含む)を課し総合的に判定する。なお、第 2 次選考は令和 7 年 12 月 6 日(土)・12 月 7 日(日)に行い、選考の結果は 12 月 18 日(木)に通知する。
	芸術・表現行動学科	第 2 次選考は、第 1 次選考合格者について小論文と面接(口述試験を含む)及び実技検査を課し、本学の必修科目を受講するのに必要な能力を基準として、総合的に判定する。なお、第 2 次選考は令和 7 年 12 月 6 日(土)・12 月 7 日(日)に行い、選考の結果は 12 月 18 日(木)に通知する。 【実技検査については、一般選抜実技検査を参照のこと。】
備　　考		推薦を行う者については、高等学校長のほか高等専門学校長及び高等部を置く特別支援学校長並びに文部科学大臣から高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定された在外教育施設の長を含む。 学校長が推薦する人数は制限しない。

◆ 生活科学部

募集人員	人間生活学科(7 名) 心理学科(3 名)
出願資格	令和 7 年度中(令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月)に高等学校(中等教育学校を含む)を卒業又は卒業見込みの女子で、真理の探究に対し強い憧憬と意欲を抱き、かつ、高等学校長が次の**①と②の双方**に該当すると認め、責任を持って推薦できる者
推薦要件	①調査書の学習成績概評が、Ａの者 ②志望学科における各専門領域の勉学に強い意欲を有する者
選考方法	出願書類の審査により第 1 次選考を行い、選考結果は令和 7 年 11 月 14 日(金)に通知する。 第 2 次選考は、第 1 次選考合格者に対し、志望学科による小論文(心理学科のみ)と面接（口述試験を含む)を課し、総合的に判定する。 なお、第 2 次選考は令和 7 年 12 月 6 日(土)に行い、選考の結果は 12 月 18 日(木)に通知する。
備　考	推薦を行う者については、高等学校長のほか高等専門学校長及び高等部を置く特別支援学校長並びに文部科学大臣から高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定された在外教育施設の長を含む。 学校長が推薦する人数は制限しない。

◆ 共創工学部

募集人員	文化情報工学科(6 名)
出願資格	令和 7 年度中(令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月)に高等学校(中等教育学校を含む)を卒業又は卒業見込みの女子で、高等学校長が次の**①又は②のいずれか**に該当すると認め、責任を持って推薦できる者
推薦要件	①調査書の学習成績概評が、Ａの者 ②データサイエンスに対する強い関心を持ち、優れた能力を有する者
選考方法	出願書類の審査により第 1 次選考を行い、選考結果は令和 7 年 11 月 14 日(金)に通知する。 第 2 次選考は、第 1 次選考合格者に対し、志望学科による小論文と面接(口述試験を含む)を課し、総合的に判定する。なお、第 2 次選考は令和 7 年 12 月 6 日(土)・12 月 7 日(日)に行い、選考の結果は 12 月 18 日(木)に通知する。
備　考	推薦を行う者については、高等学校長のほか高等専門学校長及び高等部を置く特別支援学校長並びに文部科学大臣から高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定された在外教育施設の長を含む。 学校長が推薦する人数は制限しない。

(注)理学部、生活科学部食物栄養科学科及び共創工学部人間環境工学科では、学校推薦型選抜を実施しません。学校推薦型選抜を実施しない学科については、同時期に総合型選抜(新フンボルト入試)を実施します。

2. 出願期間

インターネット出願登録期間　　令和7年10月31日(金)9:00～11月5日(水)8:59

郵送出願期間　　令和7年11月4日(火)～11月5日(水)【必着】

この期間中にインターネット出願の登録と検定料の納入を済ませ、なおかつ出願書類が本学に到着するよう送付すること。

ただし、11月4日(火)以前の発信局消印のある書留速達に限り、期限後に到着した場合でも受理する。

3. 外国語検定試験(TOEFL、TOEIC、英語検定など)の取扱いについて

次の学科の志望者は、外国語検定試験(TOEFL、TOEIC、英語検定等)に関して、下表のとおり定めます。

学部	学科	摘要
文教育学部	人文科学科	外国語検定試験(TOEFL、TOEIC、英検)のスコア・級を持っている者は、その写しを提出すること。
	言語文化学科	外国語検定試験(TOEFL、IELTS、TOEIC、英検、ケンブリッジ英語検定、TEAP、GTEC；HSK、中検；DELF／DALF、TCF、仏検；独検)のスコア・級を持っている者は、その写しを提出すること。
	人間社会科学科教育科学・子ども学コース	外国語検定試験(TOEFL、IELTS、TOEIC、英検)のスコア・級を持っている者は、その写しを提出すること。
生活科学部	人間生活学科	外国語検定試験(TOEFL、IELTS、TOEIC、英検)のスコア・級を持っている者は、その写しを提出すること。
	心理学科	外国語検定試験(TOEFL、IELTS、TOEIC、英検)のスコア・級を持っている者は、その写しを提出すること。
共創工学部	文化情報工学科	外国語検定試験(TOEFL、IELTS、TOEIC、英検)のスコア・級を持っている者は、その写しを提出すること。

〔注〕

1. TOEFL、TOEIC については、団体特別受験制度によるスコアは認めない。
2. スコア・級の写しについては、第2次選考初日から遡り2年以内に受験したものとする。スコア・級、合否は問わない。
3. TOEIC については、公式認定証(紙)の原本を提出することを原則とするが、A4 判に印刷したデジタル公式認定証も有効とする。

Ⅶ 帰国生徒・外国学校出身者特別選抜

（学科のアドミッション・ポリシーについては 5 ページを参照）

1. 募集人員・出願要件〔帰国生徒・外国学校出身者特別選抜〕

実施学部・学科	文教育学部：人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科教育科学・子ども学コース、芸術・表現行動学科 理　学　部：数学科、物理学科、生物学科、情報科学科 生活科学部：人間生活学科、心理学科 共創工学部：文化情報工学科
募集人員	入学定員のうち若干名
出願資格	日本国籍を有する女子及び日本国の永住許可を得ている女子で、保護者の海外勤務などの事情(※)により、外国において最終学年を含め 2 年以上(2 学年相当修了も含む)継続して学校教育を受け、かつ次のいずれかに該当する者 ⑴ 外国の正規の教育制度に基づく教育機関において、12 年の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む)を令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日までに卒業(修了)した者又は卒業(修了)見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者 ⑵ 外国において、令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日までにスイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を取得した者又は取得見込みの者 ⑶ 外国において、令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日までにドイツ連邦共和国の各州で大学入学資格として認められているアビトゥア資格を取得した者又は取得見込みの者 ⑷ 外国において、令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日までにフランス共和国の大学入学資格として認められているバカロレア資格を取得した者又は取得見込みの者 ⑸ 外国において、令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日までにグレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格又はインターナショナル・ジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格を取得した者又は取得見込みの者 ⑹ 外国において、令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日までに欧州連合構成国において大学入学資格として認められているヨーロピアン・バカロレア資格を取得した者又は取得見込みの者 ⑺ 外国において文部科学大臣が指定する国際的な評価団体（WASC、CIS、ACSI、NEASC、Cognia、COBIS）から教育活動等に係る認定を受けた教育施設に置かれる 12 年の課程を令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日までに卒業(修了)した者又は卒業(修了)見込みの者 (※)単身留学は、この事情に含まれない。 (注1) ⑴の「これに準ずる者で文部科学大臣の指定した者」は、次のとおり。 ① 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者と同等以上の学力があるかどうかに関する認定試験であると認められる当該国の検定（国の検定に準ずるものを含む）に令和 7 年 4 月 1 日以降に合格した者で、18 歳に達した者及び令和 8 年 3 月 31 日までに 18 歳に達する者 ② 外国において、高等学校に対応する学校の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 11 年以上の課程を修了したとされるものであることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを令和 7 年 4 月1日から令和 8 年 3 月 31 日までに修了した者又は修了見込みの者 (注2) 外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校(文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有していると認定した在外教育施設)に在学した期間については、外国において学校教育を受けたものとはみなさない (注3) インターナショナルスクールを卒業した者又は卒業見込みの者は、⑵～⑺のいずれにも該当しない場合、出願は認められない。
選考方法	入学者の選抜は、次の第 1 次選考、第 2 次選考に分けて行う。 ①　第 1 次選考：出願書類を資料として選考する。 ②　第 2 次選考：第 1 次選考合格者に対し第 2 次選考を行う。
出願期間	下記期間中にインターネット出願の登録と検定料の納入を済ませ、なおかつ出願書類が本学に到着するよう送付すること。 **インターネット出願登録期間　令和 7 年 10 月 17 日(金)9:00～10 月 23 日(木)8:59** **郵送出願期間　令和 7 年 10 月 21 日(火)～10 月 23 日(木)【必着】** ※10 月 22 日(水)以前の日本国内の発信局消印のある書留速達に限り、期限後に到着した場合でも受理する。
第 1 次選考	令和 7 年 11 月 14 日(金)に第 1 次選考結果を通知する。
第 2 次選考	第 2 次選考は令和 7 年 12 月 6 日(土)・12 月 7 日（日）に行う。詳細は次ページの表を参照。 ＊12 月 7 日(日)は文教育学部、共創工学部文化情報工学科のみ。
合格発表	令和 7 年 12 月 18 日（木）に通知する。

第2次選考選抜方法

文教育学部	人文科学科	小論文及び面接（口述試験を含む）を行う。
	言語文化学科	小論文及び面接（口述試験を含む）を行う。
	人間社会科学科 教育科学・子ども学コース	小論文及び面接（口述試験を含む）を行う。
	芸術・表現行動学科	小論文、面接（口述試験を含む）及び実技検査を行う。 (実技検査は一般選抜実技検査を参照)
理学部	数学科	面接（口述試験を含む）を行う。
	物理学科	面接（口述試験を含む）を行う。
	生物学科	論述試験及び面接（口述試験を含む）を行う。
	情報科学科	数学、日本語による小論文及び面接（口述試験を含む）を行う。 〔注〕数学の出題範囲は次のとおり。 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B(数列)、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面)
生活科学部	人間生活学科	面接（口述試験を含む）を行う。
	心理学科	小論文及び面接（口述試験を含む）を行う。
共創工学部	文化情報工学科	小論文及び面接（口述試験を含む）を行う。

2. 外国語検定試験(TOEFL、TOEIC、英語検定など)の取扱いについて

理学部物理学科では、外国語検定試験(ケンブリッジ英語検定、GTEC、IELTS、TEAP、TOEFL、TOEIC、英検)のスコア・級を持っている者は、その写しを提出すること。

〔注〕

1. TOEFL、TOEIC については、団体特別受験制度によるスコアは認めない。
2. スコア・級の写しについては、第2次選考初日から遡り2年以内に受験したものとする。スコア・級、合否は問わない。
3. TOEIC については、公式認定証（紙）の原本を提出することを原則とするが、A4 判に印刷したデジタル公式認定証も有効とする。

Ⅷ 私費外国人留学生（学部留学生）特別選抜

1. 学科のアドミッション・ポリシー

◆ 文教育学部

【人文科学科】

人文科学科は、人類のさまざまな歩みの中から、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。

入学前には、さまざまな教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心を持ったテーマについて自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探究の面白さを経験してきていただきたいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある方の入学を希望します。とくに留学生には、異なる文化圏で生活・勉学することから掴むもの、そして他の日本人学友へのフィードバックを期待します。

人文科学科には、哲学・倫理学・美術史、比較歴史学、地理環境学のプログラムがあり、入学後、自分が何を学びたいのかを見極め、1年次末に人文科学科の各プログラム又はグローバル文化学のいずれかの主プログラムを選択します。入学後は一般の学生と同じカリキュラムを受講していくわけですから、それについていくだけの日本語能力と基礎学力が必要となります。

実際の入学試験では、日本留学試験及び本学の教科・科目に係る個別テスト(外国語)の成績、最終出身校の成績証明書、及び口述試験の結果などから総合的に合否を判定します。日本留学試験及び本学の入学試験では、日本語の能力をはじめとして、高等学校卒業水準の全般的な基礎学力を見ます。口述試験では、これまで学んできたこと、入学後の勉学の計画と意欲、人文科学科で何を学びたいのかなどについて質問し、それらの問いに的確に応答できるかといった点を評価の対象とします。

【言語文化学科】

皆さんは生まれて以来、家庭や社会での生活の中で自分の母語を操る力を獲得してきました。また学校では、母語に加えて外国語の授業も受けてきたでしょう。そして、同時に、心揺さぶる文学作品にもいろいろと出会ってきたことと思います。そういった経験の中で言葉や文学の美しさ、不思議さを感じてきたことでしょう。

言葉や文学の美しさへの感動、不思議さへの好奇心は、まだ漠然としたものであるかもしれません。言語文化学科での学習・研究は、皆さんの好奇心を明確なことばで形にし、さらにそれを解き明かしていく方法を皆さんに示してくれるはずです。いったんそのような方法に目を開かれたならば、言語も文学もこれまでよりさらに面白く、驚きに満ちたものであることに皆さんは気づくに違いありません。また、皆さんは言語のみでなく、それを支える各地域の文化や思想についても学ぶことになるでしょう。異なる文化圏から来られる皆さんにとっては、 異文化間の交流ということも興味のあるテーマではないでしょうか。そうした事柄についても、ぜひ本学科で学習してほしいと思います。

言語文化学科は、言葉に愛着を持ち、以上述べてきたような学習・研究に興味を持ち、そのための訓練に耐えられるだけの十分な基礎学力と、旺盛な知的好奇心と、言葉への愛着を持ち、主体性と協働性を持って行動できる学生を求めます。

言語文化学科では、日本語・日本文学、中国語圏言語文化、英語圏言語文化、仏語圏言語文化という4つのプログラムを開設しています。入学後、自分が何を学びたいのかを見極め、1年次末に主プログラムを決定することになります。

選考は、語学能力と全般的基礎学力を測るために、日本留学試験の点数を参考とし、また外国語の試験、面接による口述試験が課されます。口述試験では、質疑を通して、本学での学習計画などを的確に相手に伝えられるかどうかといったコミュニケーション能力や自己表現力を判断します。さらに最終出身校での成績などを加えて総合的に合否を判定します。

【人間社会科学科】

本学科には、人間の発達について教育科学的、総合的に考えたり、人間の意識や行動の社会的側面を考察したり、子どもが育つ環境や文化について考えるなどの、様々な研究アプローチがありますが、共通しているのは、自分を含めた「人間」に対するあくなき好奇心です。人間に関わる諸問題を学問的に解明したり、そこで得られた知識を実際に役立てていきたいと考える学生の進学を期待します。本学科を受験するにあたっては、様々な教科や科目について幅広く学んできてください。特に、日本語・英語(外国語)・数学は、大学での学修と研究にとって大変重要な基礎的能力として必要です。このほか社会科学(地理、歴史、公民など)や自然科学(理科)の学習を通じて、人間について深く考える姿勢と能力を身につけた学生を歓迎します。

人間社会科学科では、教育科学、社会学、子ども学のプログラムを設けています。入学後、各プログラムの特徴と自分の関心とを精査検討し、1年次末にいずれかの主プログラム又はグローバル文化学主プログラムを選択する

ことになります。
出願資格には、日本留学試験を受験した者であることを定めています。この日本留学試験によって、日本語能力と、幅広い基礎的な知識・教養を身につけているかどうかを判断します。また入学試験では、大学での研究に必要不可欠な基礎的能力と日本語能力を身につけた志願者を得るために、外国語の教科・科目に係る個別テストと口述試験を行います。

【芸術・表現行動学科】

本学科は、人間の芸術及び表現行動としてのパフォーマンスとその学問的研究との両方を、同時に追求しようとする貪欲な人を求めています。本学は小規模ながらも総合大学ですから、その特性を十分に利用して、「自ら」多様な可能性を切り開こうという積極的姿勢が要求されます。

なお本学科では、舞踊や音楽の理論と実技の双方の習得を目的とし、4年一貫で履修する専修プログラムを設け、複数プログラム選択履修制度をとっておりません。受験の際に選択したコース(専修プログラム)を履修します。

実際の入学試験では、日本留学試験及び本学の教科・科目に係る個別テスト(外国語)の成績、最終出身校の成績証明書、及び実技検査の結果などから総合的に合否を判定します。

【舞踊教育学】：

本専修プログラムは、舞踊を中心にスポーツから日常動作にいたる人間の身体活動や表現について、理論と実践の両面から積極的に研究を進めることのできる、両者のバランスの取れた、エネルギッシュな人材を求めています。

【音楽表現】：

音楽は人間の感性に関わるとともに、高度に知的社会的な活動であり、人間の営みに深く根づいています。本専修プログラムは、勉強も実技もきちんとやってみたい、そんな贅沢な悩みを抱えている人に開かれています。

※　グローバル文化学(環)プログラム

グローバル化する現代社会の課題を、①地域研究・地域文化、②多文化交流・多文化共生、③国際協力・国際関係、という3つの領域を組み合わせることで、動態的に捉え、実践的に学んでいこうというのが、グローバル文化学のコンセプトです。

その特徴は、文教育学部の3つの学科(人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科)のいずれの学生も、主プログラムとして選択できることです(各学科の学生数の15%程度を上限とします)*。また、所属学科のいずれかの副プログラムを履修することで、学際的な学びができます。このような特徴から「学環」と呼んでいます。

この学環での学修を希望する人は、自分の関心や得意分野にそって、受験する学科を選んでください。カリキュラムなど、さらに詳しい情報を知りたい人は、文教育学部グローバル文化学環のホームページにアクセスしてみてください。

* ただし、人間社会科学科は教育科学・子ども学コースを除きます。

◆ 理 学 部

【数学科】

数学は、あらゆる現象の背後にある数や図形の永久に変わらない真理を追究する学問です。それを学ぶことで、魂を揺さぶる美しいものや実生活で役に立つものに出会い、また世界を見通すための厳格な論証法を身につけられると考えます。

このような観点から、数学科では主に以下のような目標を持った人を求めます。

・教師や研究者のように数学を職業としたい人
・数理的な素養を生かして社会を支える仕事につきたい人
・とにかく数学に対して意欲を持って勉強したい人

志願者に求めるのは以下のことです。

・高校での数学を十分に理解し、大学での講義に必要な数学の知識を身につけている。
・文章から数学的な意味を読み取ることができる。
・自分の考えを数学的、論理的な文章に表現して相手に伝えられる。

【物理学科】

自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望します。(もちろん、必要になれば教員の適切な助言及び指導を受けることができます。)また、豊かな人間性とともに、他人との協調性に優れた人格が望まれ、忍耐力も必要です。卒業後には物理学の勉学を通して培った、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を各方面で発揮し、社会において指導的役割を果たす女性となることを期待しています。しかしながら究極的には、「物理学を学んで生き生きと充実した人生を送ること」が最も大切と考えています。

【化学科】

化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に関係しており、その領域は数学・物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学や地球科学の知識の必須な分野まで広がっています。したがって、化学科の志願者は、高校では化学のほかにこれらの基礎となる科目、特に、数学・物理・生物を幅広く履修して、理論的思考力や自然科学の基礎知識をしっかり体得しておくことが望まれます。また、英語で書かれた文献を読みこなす語学力も要求されますので、高等学校での英語の十分な学習が必要です。入学後には、専門の学習や研究の基盤となる実験能力を養うため、学生実験を重視しています。

これらを踏まえて、入学試験においては、総合的理解力をその評価基準とします。

【生物学科】

生物学では、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのためには、いろいろな視点から考える柔軟な思考力とそれを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーを持つ学生を希望します。“生き物”に関する理解と関心を深め、より豊かな知の財産を築ける人に育つことを期待しています。

【情報科学科】

情報科学はコンピュータの出現によってその存在と価値が確かめられた「情報」とよばれる概念を、エネルギーや物質と並ぶ世界の主要な構成要素として認識し、その生成、管理、利用に関する原理を探究する新しい学問分野です。今日、その応用は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学にも及んでいます。

この奥深さを理解し、これまでの成果を学びたい人、さらに今後の進展に積極的に貢献したい人にぜひ進学してきてほしいと思います。情報科学は、これまでの数理科学や自然科学の考え方を偉大な先達として独自の方法論を展開しようとしていることから、広くかつ深い理系のセンスが問われます。情報科学を通じて 21 世紀の科学技術を支えるのは自分たち女性だと心底思っている人、あるいは思いたい人、あるいはそう言われて「そうなんだ」と今気づいた人を大歓迎します。

◆ 生活科学部

【食物栄養学科】

食物栄養学科は、豊かな食生活や健康な社会の実現に向けて、食物と栄養や健康に関する科学的視点と実践力を身につけた社会のリーダーとなる専門家の育成をめざしています。そのために食物と栄養に関する様々な学問分野において、分子、遺伝子、細胞レベルから人間栄養学的なものまで幅広く教育研究を行っています。

本学科の教育の特徴は、管理栄養士養成課程に必要な多数の実験や臨地実習を含む長時間にわたる実験・実習が必修となっていることです。実験・実習科目は1、2年より開講され、特に3年生の午後は毎日実験・実習が当てられています。所定単位を取り、本学科を卒業すると、栄養士資格が取得できると同時に、管理栄養士の国家試験受験資格と食品衛生監視員の任用資格が得られます。また、栄養教諭(一種)免許を取得することも可能です。

本学科の教育研究は実験科学を基盤とした上で生活や社会との接点を重視するため、本学科に進学する学生には、忍耐強く実験・実習に取り組めること、自ら考え行動できること、他者とコミュニケーションをとりながら物事を進められることを望みます。高等学校では、理数系の基礎をしっかり履修すること並びに生活に即した学習を重視することを望みます。

選考では、試験の成績と口述試験の結果及び日本語能力を総合して判定します。

【人間生活学科】

本学科では、豊かな人間生活の実現を担う人材の育成を、「生活社会科学」、「生活文化学」という相互に関連する 2 つのアプローチを通して追求します。①生活社会科学:地域社会から国際社会まで、多元的な社会環境を視野に入れて、家族、消費者、女性、高齢者、子ども、制度と政策の問題などの生活と社会及びその関係について社会科学的視点から分析し、政策の立案・提言を探究します。②生活文化学:人間にとって最も身近な服飾と住居、工芸、デザインなどの生活造形を生み出し、子どもを育んできた生活文化の歴史と現在について、比較文化的・民俗学的・歴史学的・保育学的視点から考察し、理解を深めます。これらの人間生活に関わる諸課題に関心があり、問題意識と研究意欲を持っている人、錯綜する現代の生活状況の中で、人間性を重視した社会を築くために貢献したいと考えている人、潤いのある生活を実現しようという熱意を持っている人を歓迎します。

本学科を志望する人は、日本語を十分に学習しているとともに、人間生活学科の2つのアプローチを踏まえ、高等学校において、地理、歴史、政治、経済などの社会科系の科目をしっかり履修していることはもちろんのこと、英語、数学をはじめ、高等学校における教科科目を偏り無く履修していることを強く望みます。

【心理学科】

心理学は、人間の心理的プロセスを科学的に解明し、エビデンスに基づいて人々の生活する環境や社会の課題解決を目指す学問領域です。本学科では、心理学における実験や調査による基礎・実証的なアプローチと、対話やカウンセリングによる臨床・実践的なアプローチの両者から、研究と教育に取り組みます。

この目的を理解して、人間の行動と心に関する科学的な見方と深い洞察力を磨き、現代の生活環境や社会の諸問題に取り組む研究意欲のある人、心の発達や健康への心理臨床的支援を行うことで社会に貢献しようという熱意のある人の進学を歓迎します。

本学科に入学した学生は、1年次より、心理学主プログラムを選択することになります。一定の基準に従い、公認心理師受験資格に必要な科目を履修することも可能です。

志望する人は、日本語の学習とともに、高等学校において、英語（外国語）・数学をはじめ、高等学校における教科科目を偏り無く履修していることを強く望みます。

◆ 共創工学部

【人間環境工学科】

人間環境工学科は社会課題の解決に向けて、主に社会科学知と工学・テクノロジを協働させることで社会イノベーションを推進する力の育成を目標とします。イノベーション推進には、技術開発に留まらず、ロジックモデルを用いることでプロセス全体を見通せることが求められ、この点が従来の工学とは異なる新しさとなります。

人間環境工学科においては、次のような学生を求めます。

1. 人々との協働のもと、イノベーションの社会実践を通じて新たな価値の創成にチャレンジする女性リーダーを目指す人。
2. 持続可能な環境を構想するために求められる科学的思考力と設計力を修得するのに必要な、理科系を中心とする基礎学力を持つ人。
3. 自然科学・工学と人文学・社会科学の協働、データサイエンスやICT（情報通信技術）に強い興味を持ち、人間、環境、材料分野などの工学系分野に関する専門知識の修得に意欲のある人。
4. 環境や社会から独自に疑問を見出す課題発見力と科学技術を用いた工学的アプローチによる問題解決策の発想力・設計力（デザイン力）を身につけたいと考える人。

【文化情報工学科】

文化情報工学科は、人間の文化に関する知（人文知）をデータサイエンスや工学と協働し、文化のイノベーションを推進する力の育成を目標とします。

文化情報工学は、人文知に工学を協働させることにより生み出される、人間の文化を尊重する新しいタイプの工学です。情報・工学技術を用いて、文学、言葉、芸術、思想、歴史、地理などに関する多種多様な情報をデジタル化（収集・生成・可視化）し、分析を行い、新たな作品や価値を創出します。

文化情報工学科においては、次のような学生を求めます。

1. 文化情報工学は、これまで別個に考えられてきた文化、情報、工学の協働を目指します。文理の別に拘わらず、人間や社会で生起する事象に対する幅広い知的好奇心と、データや論理的思考で自ら解明していく意欲及び探究力を持っており、その結果を社会での発信や実践につなげる意志を持つ人。
2. 人間の文化や社会に関心を持ち、コンピュータや情報通信技術に興味を持ち、自分の手でものを作ることが好きな人。
3. データサイエンスの基礎知識を用いた社会や文化の分析に関心を持ち、将来、データサイエンスや情報通信技術の知識や技能を活用する職業につきたい人。
4. 文化の創造に関心を持ち、データサイエンスや工学の基礎知識や技能を用いた作品の創造や発信、多様な人々との協働を通じた社会での実践を志す人。

2. 募集人員・出願要件〔私費外国人留学生特別選抜〕

実施学部・学科	文教育学部：人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科 理　学　部：数学科、物理学科、化学科、生物学科、情報科学科 生活科学部：食物栄養学科、人間生活学科、心理学科 共創工学部：人間環境工学科、文化情報工学科
募集人員	各学科とも若干名
出願資格	次の(1)及び(2)の両方に該当する日本国籍を有しない女子で、出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」又は「留学」に変更できる在留資格を有する者及び取得できる見込みの者 (1)次のいずれかに該当する者 ①外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者及び令和 8 年(2026 年) 3 月 31 日までに修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者 ②スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者又は令和 8 年(2026 年) 3 月 31 日までに取得見込みの者 ③ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者又は令和 8 年(2026 年) 3 月 31 日までに取得見込みの者 ④フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者又は令和 8 年(2026 年) 3 月 31 日までに取得見込みの者 ⑤グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格又はインターナショナル・ジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格を有する者又は令和 8 年(2026 年) 3 月 31 日までに取得見込みの者 ⑥欧州連合構成国において大学入学資格として認められているヨーロピアン・バカロレア資格を有する者又は令和 8 年(2026 年) 3 月 31 日までに取得見込みの者 ⑦外国において、文部科学大臣が指定する国際的な評価団体（WASC、CIS、ACSI、NEASC、Cognia、COBIS）から教育活動等に係る認定を受けた教育施設に置かれる 12 年の課程を修了した者又は令和 8 年(2026 年) 3 月 31 日までに修了見込みの者 (2)独立行政法人日本学生支援機構主催の「日本留学試験」を受験した者 （受験を要する科目については、次ページの表を参照） さらに、理学部物理学科、生活科学部食物栄養学科を志願する者については、「TOEFL 試験」の受験が必要である。 なお、日本において高等学校を卒業又は同等以上の資格を得た者は、一般選抜志願者用の募集要項により出願すること。
選考方法	志願者(理学部物理学科を除く)に「本学の入学試験」を課し、その結果と「日本留学試験成績」及び最終出身校の成績証明書等の提出書類の内容を総合して合格者を判定する。 なお、理学部物理学科を志願する者は、「日本留学試験」、「TOEFL 試験」及び最終出身校の成績証明書等の提出書類の内容を総合して合格者を判定する。
出願期間	出願書類は郵送により受付を行う。 **令和 7 年（2025 年）12 月 9 日(火)～12 月 11 日(木)【必着】** ただし 12 月 10 日(水)以前の日本国内の発信局消印のある書留速達に限り、期限後に到着した場合でも受理する。
試験日	**令和 8 年（2026 年）2 月 25 日(水)、26 日(木)**

3.「日本留学試験」で受験を要する科目等

学部	学科	受験を要する科目					成績利用
		日本語	総合科目	数学	理科(物理・化学・生物)	出題言語	
文教育学部	全学科	○	○	ｺｰｽ1又は2		日本語	6月/11月
理学部	数学科	○		ｺｰｽ2	2科目自由選択	日本語	6月/11月
	物理学科	○		ｺｰｽ2	物理を必須とし、化学・生物から1科目選択	日本語	6月/11月
	化学科	○		ｺｰｽ2	化学を必須とし、物理・生物から1科目選択	日本語	6月/11月
	生物学科	○		ｺｰｽ2	生物を必須とし、物理・化学から1科目選択	日本語	6月/11月
	情報科学科	○		ｺｰｽ2	2科目自由選択	日本語	6月/11月
生活科学部	食物栄養学科	○		ｺｰｽ2	2科目自由選択	日本語	6月/11月
	人間生活学科	○	○	ｺｰｽ1又は2		日本語	6月/11月
	心理学科	○	○	ｺｰｽ1又は2		日本語	6月/11月
共創工学部	人間環境工学科	○		ｺｰｽ2	2科目自由選択	日本語	6月/11月
	文化情報工学科	○	○	ｺｰｽ1又は2		日本語	6月/11月

〔注〕

1. 「2025 年度日本留学試験」の6月又は 11 月の成績を利用します。
2. 数学について、文教育学部、生活科学部(人間生活学科、心理学科)及び共創工学部(文化情報工学科)では、コース1又はコース2のいずれかを受験してください。

4. 本学の入学試験〔私費外国人留学生特別選抜〕

(1) 検査日

詳細については、本学私費外国人留学生(学部留学生)特別選抜学生募集要項に明示する。

(2) 教科・科目に係る個別テスト教科・科目

志望する学部学科		出題教科等	出題科目(出題範囲)
文教育学部	人文科学科	外国語	英語コミュニケーションⅠ・英語コミュニケーションⅡ・英語コミュニケーションⅢ
	言語文化学科	外国語	英語コミュニケーションⅠ・英語コミュニケーションⅡ・英語コミュニケーションⅢ
	人間社会科学科	外国語	英語コミュニケーションⅠ・英語コミュニケーションⅡ・英語コミュニケーションⅢ
	芸術・表現行動学科	外国語	英語コミュニケーションⅠ・英語コミュニケーションⅡ・英語コミュニケーションⅢ ※教科・科目に係る個別テストのほかに、実技検査を行う。一般選抜実技検査を参照
理学部	数学科	数学 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C 英語コミュニケーションⅠ・英語コミュニケーションⅡ・英語コミュニケーションⅢ
	物理学科		教科・科目に係る個別テストは課さない。次ページ(5)を参照
	化学科	数学 理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C 化学基礎・化学と、 物理基礎・物理、生物基礎・生物から1 英語コミュニケーションⅠ・英語コミュニケーションⅡ・英語コミュニケーションⅢ
	生物学科	数学 理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C 生物基礎・生物と、 物理基礎・物理、化学基礎・化学から1 英語コミュニケーションⅠ・英語コミュニケーションⅡ・英語コミュニケーションⅢ
	情報科学科	数学 数学・理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C、物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から2 英語コミュニケーションⅠ・英語コミュニケーションⅡ・英語コミュニケーションⅢ
生活科学部	食物栄養学科	数学 理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B・数学C 物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から1 英語コミュニケーションⅠ・英語コミュニケーションⅡ・英語コミュニケーションⅢ
	人間生活学科	外国語	英語コミュニケーションⅠ・英語コミュニケーションⅡ・英語コミュニケーションⅢ
	心理学科	外国語	英語コミュニケーションⅠ・英語コミュニケーションⅡ・英語コミュニケーションⅢ
共創工学部	人間環境工学科	数学 数学・理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B・数学C 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B・数学C、物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から2 英語コミュニケーションⅠ・英語コミュニケーションⅡ・英語コミュニケーションⅢ
	文化情報工学科	外国語	英語コミュニケーションⅠ・英語コミュニケーションⅡ・英語コミュニケーションⅢ

〔注〕

1 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学Aは、全範囲から出題する。数学Bについては、「数列」を出題範囲とする。数学Cについては「ベクトル」を出題範囲とするが、理学部全学科及び共創工学部人間環境工学科の「数学・理科」では「平面上の曲線と複素数平面」からも出題する。

2「物理基礎・物理」については、物理基礎、物理の全範囲から出題、「化学基礎・化学」については、化学基礎、化学の全範囲から出題、「生物基礎・生物」については、生物基礎、生物の全範囲から出題する。

(3) 実技検査(芸術・表現行動学科のみ)

実技検査については、一般選抜実技検査を参照のこと。

(4) 口述試験

各学部(理学部物理学科は除く)とも口述試験を行う。

(5) TOEFL 試験を要する学科

理学部物理学科及び生活科学部食物栄養学科志願者については、TOEFL 試験を受けなければなりません。

○試験結果の提出方法

TOEFL のスコアについては、下記2点の両方を提出する。

① ETS から本学宛に直送される“Official Score Reports”(公式スコアレポート)

・試験実施機関(ETS)から直接お茶の水女子大学に送付する手続を執ってください。

・お茶の水女子大学の登録コード番号は 7224 です。学部別のコード番号はありません。TOEFL 申込時に、このコード番号により手続を行えば、試験後に直接お茶の水女子大学へ試験結果が送付されます。

・テスト申込時にお茶の水女子大学への送付手続を行わなかった場合には、後日 ETS の定めにしたがって Official Score Reports の送付手続を執ってください。

・送付手続の具体的な方法については、TOEFL のウェブサイトを確認してください。なお、スコアレポートの送付には試験日から1ヶ月半～2ヶ月かかるため、余裕を持った受験計画を立ててください。

② ETS から本人宛に送付される“Test Taker Score Report”(受験者控えスコアレポート)

・原本を提出してください(出願時に他の書類と同封する)。

○有効期間

令和7年(2025 年)4月1日以降令和7年(2025 年)11 月 30 日までにお茶の水女子大学に到着したものを有効とする。

Ⅸ 受験上・修学上の配慮の事前相談について

1. 本学に入学を志望する者のうち、心身に障害あるいは疾病があり、受験上の配慮を必要とする者(点字又は代筆による解答を希望する者を含む)については、出願期間前に入試課に申し出ていただき、今後公表する募集要項記載の所定の期限までに、「受験上の配慮事前相談申請書」、「医師の診断書」等をご提出ください。なお、受験上の配慮を講じる必要はないまでも、修学上の不安等を感じる者も、同様に申し出てください。

2. 本学の「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」というミッションから、自身の性自認にもとづき、女子大学で学ぶことを希望する者を 2020(令和2)年4月入学者から受け入れることとしました。戸籍又はパスポートの性別と性自認が異なっている者については、入学後の学生生活をサポートするために、通称名や更衣室の使用などについて、あらかじめ情報を提供したいと考えていますので、入試の出願1ヶ月前までに必ず入試課に申し出てください。その際に、「出願申出書」及び「住民票又はパスポートの写し」等を提出していただき、出願資格等の確認をいたしますが、申出によって、合否判定の際に不利に取り扱われることはありません。

Ⅹ 令和9年度入試に関する変更の予告

○一般選抜(後期日程)大学入学共通テストで受験を要する教科等の変更について

文教育学部人文科学科では、アドミッションポリシーに適合した学生を、より適切に選抜する観点から、下表のとおり受験を要する教科等の変更(「情報」の削除)を予定しています。

〈現行〉

試験区分	大学入学共通テスト							本学の試験			合計
教科・科目	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	情報	計	小論文	実技	計	
人文科学科*1	(50)	(50)	(50)	(50)	(50)	(50)	150	100	—	100	250

〔注〕

*1 人文科学科は、大学入学共通テスト「国語」、「地理歴史・公民、理科から 1」、「数学」、「外国語」、「情報」から3教科・科目を選択。人文科学科の本学の試験「小論文」は、英語文の短い論文をもとに日本語で論述する。なお、英和辞典(電子式を除く)の持込みを認める。

〈変更後〉

試験区分	大学入学共通テスト							本学の試験			合計
教科・科目	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	情報	計	小論文	実技	計	
人文科学科*1	(50)	(50)	(50)	(50)	(50)	(—)	150	100	—	100	250

〔注〕

*1 人文科学科は、大学入学共通テスト「国語」、「地理歴史・公民、理科から 1」、「数学」、「外国語」から3教科・科目を選択。人文科学科の本学の試験「小論文」は、英語文の短い論文をもとに日本語で論述する。なお、英和辞典(電子式を除く)の持込みを認める。

Ⅺ お茶の水女子大学入学資格個別審査について

令和8年度一般選抜(前期日程・後期日程)に係る本学入学資格審査を次のとおり行います。
(※一般選抜「1.出願資格」中の(4)に該当する場合のみ該当。通常の高等学校又は中等教育学校を卒業した方又は卒業見込みの方は入学資格個別審査に該当しません。)

1. 審査内容、審査方法(審査のめやす)

令和8年3月末までに 18 歳に達する(達している)女子で、次の項目(審査のめやす)のいずれかに該当する者について、申請書類の書面審査を行います。
また、本学では志望学部・学科に関わらず、大学全体で審査を行います。

(1) 3年以上の教育施設での学習(見込みの者を含む)又は、社会での実務経験等を有する者。
① 3年以上の教育施設での学習は、組織的な教育により、相当の授業時間の教育が行われるものであること。
② 実務経験等については、本学の教育目的、教育課程に照らし、ふさわしいものであること。

(2) 大学の科目等履修生として在籍中の者又は、在籍していた者。

(3) その他、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者。

2. 申請期間(前期日程、後期日程とも)

(1) 7月審査－令和7年7月 1 日(火)～7月4日(金)必着

(2) 1月審査－令和8年1月6日(火)～1月 8 日(木)必着
必ずこの期間内に本学に到着するように郵送してください。

3. 審査に必要な書類(申請書類)

(1) 入学資格審査申請書(本学所定様式)
学習歴、社会での実務経験等を記入してください。科目等履修生は当該欄も記入してください。

(2) 学習歴の証明書、又は、社会での実務経験等がわかるもの等
・学習歴の証明書は学校側で作成した卒業(見込)証明書等とします。
・大学の科目等履修生は、単位修得(見込)証明書を提出してください。

(3) 上記 1(1)①に該当する教育施設に通学している者は、その学校の学校案内、学則、カリキュラムがわかるもの等卒業に必要な総授業時間数、卒業に必要な普通科目の総授業時間数等がわかるものを必ず提出してください。

(4) 入学資格審査申請理由書(本学所定様式)
※上記 1(1)①及び 1(2)に該当する申請者は提出する必要はありません。
※記入に当たっては、必ず次の内容を記入してください。
・中学校を卒業後、本学の資格審査申請までの間にどのようなことをしてきたか。
・どのような理由をもって、高等学校卒業者と同等以上の学力があると認められると考えているか。
・本学でどのようなことを学びたいか。

(5) 返信用封筒(審査結果を通知するため)
住所、氏名、郵便番号を明記し、890 円分(定形郵便 110 円＋速達 300 円＋書留料金 480 円)の切手を貼付した「長形3号」の封筒。(郵便料金改定の場合は、改定後の料金分の切手を貼付すること。)

4. 申請手続方法

(1) 入学資格審査申請書及び申請理由書(本学所定様式)は本学入試課ホームページに掲載しておりますので、そちらを印刷して使用してください。入試課ホームページ URL https://www.ao.ocha.ac.jp/

(2) 申請書類を一括して、本学入試課宛に**書留速達**で郵送してください(下記6を参照)。
また、封筒の表には「入学資格審査申請書在中」と朱書きしてください。

5. 審査結果の通知方法

(1) 7月審査－8月上旬までに文書で通知します。

(2) 1月審査－審査終了後、ただちに文書で通知します。

なお、入学資格が認められた場合は、出願時に本学学生募集要項に記載されている出願書類のほか、この通知(認定書)の写しも併せて提出してください。

6. 申請書類の提出及び問合せ先

〒112-8610　東京都文京区大塚２丁目１番１号
お茶の水女子大学　入試課　電話 03－5978－5151・5152

Ⅻ　学生募集要項(願書)の発行時期・大学案内の請求方法

○学生募集要項（願書）の発行時期

募集要項種別	配布予定時期	入手方法
一般選抜(前期日程・後期日程)	10 月上旬	冊子の募集要項及び願書の発行、配布はありません。PDF 版募集要項をウェブサイトに掲載するので、そちらをご覧ください。
総合型選抜	7 月上旬	
学校推薦型選抜、 帰国生徒・外国学校出身者特別選抜	7 月上旬	
私費外国人(学部)留学生特別選抜	9 月上旬	

○大学案内の請求方法

1. テレメールで請求する方法

下記 URL・二次元コードからテレメールのサイトにアクセスし、ガイダンスに従ってお届け先等を登録してください。

https://telemail.jp

資料請求番号 (二次元コードの場合は入力不要)	発送料金 (予定)
562372	250 円

＊16 時までの受付は当日発送、16 時以降の受付は翌日発送となります。ただし、発送開始日前に請求された資料は予約受付となり、発送開始日に一斉に発送します。なお、発送開始日は変更になる場合があります。
＊資料は通常、発送日のおおむね 3～5 日後にお届けできます。ただし、土曜・日曜・祝日の配達はありません。お届け先地域や郵便事情によってはお届けに 1 週間ほど要する場合があります。
＊随時発送の資料が 1 週間以上経っても届かない場合は、テレメールカスタマーセンターまでお問い合わせください。予約受付の資料が発送開始日を 1 週間過ぎても届かない場合、資料の完成遅れや在庫不足等の理由により発送開始日が変更になっていることがあります。なお、土曜・日曜・祝日の配達は通常ありませんので、お急ぎでない場合は翌配達日のお届けを確認したうえで、お問い合わせください
＊資料請求終了時及び受付確認メール内に表示される 10 桁の「受付番号」は、資料到着まで保管しておいてください。
＊料金は、お届けした資料に同封されている料金支払い用紙の支払い方法に従いお支払いください。
＊料金の支払い方法は「コンビニ支払い」「au PAY 請求書支払い」「携帯キャリア払い」「PayPay」「クレジットカード払い」がご利用になれます(別途手数料が必要です)。
＊募集要項の請求は、出願締め切りの約7日前までの取扱いとなりますので注意してください。

テレメールに関するお問合せ先　テレメールカスタマーセンター　IP 電話　050-8601-0102　(9:30～18:00)

2. その他の請求方法

返信用封筒を本学に送付して、折り返し請求していただく、入試課事務室で直接お受け取りいただくことも可能です。詳しい請求方法等については、ウェブサイトをご確認ください。

URL:https://www.ao.ocha.ac.jp/application/howto/index.html

ⅩⅢ　お茶の水女子大学入試情報ホームページ

本学ウェブサイトの「入試情報」で、募集要項、一般選抜の出願状況、追加合格の実施の有無、統計資料や過去問題などの入試に関する情報を発信しています。

URL:https://www.ao.ocha.ac.jp

スマートフォンに入試情報をお届けします！

↑
こちらから登録できます。

スマートフォンアプリの
通知機能を用いた情報提供を
始めました。

お茶の水女子大学入試課
nyushi@cc.ocha.ac.jp

入学者選抜に関する問合せ先

お茶の水女子大学入試課

〒112-8610　東京都文京区大塚２丁目１番１号
電話番号 03-5978-5151・5152
FAX　　03-5978-5895
E-mail　nyushi@cc.ocha.ac.jp
月曜日～金曜日(祝日は除く)9 時～17 時
※　問合せはできるだけ志願者本人が行ってください
入試課ホームページＵＲＬ https://www.ao.ocha.ac.jp/